

第 49 回 定時社員総会報告

第 49 回定時社員総会が、定款第 5 条に基づき全会員の選挙によって選出された代議員によって、平成 28 年 6 月 20 日（月）14 時 30 分から、東京都千代田区・都市センターホテルにおいて開催された。

定刻、三橋会長は定款第 17 条の定めにより議長に就任し、専務理事より、出席代議員は 72 名（うち委任状出席 58 名）で、定款第 19 条第 1 項に定める定足数（総代議員数 77 名の過半数以上）を充足している旨、および定款第 19 条第 2 項に定める 3 分の 2 以上の定足数を要する第 1 号議案についてもこれを充足しており、全ての議案について適法に成立する旨の報告があり、議長は本総会の開会を宣した。

議事に先立ち、議長は、社員総会の議事録署名人に、議長のほか理事 2 名を議場に諮って選出した。

引き続き、議長は本総会の目的事項の順序に従い議事を進行させる旨を説明し、報告事項のはじめに監事より監査の報告があり、また、議長から会計監査人より受けた監査報告について報告があった。続いて、報告事項 1「平成 27 年度事業報告の

内容報告の件」について担当副会長より、報告事項 2「平成 27 年度計算書類の内容報告の件」について専務理事より、報告事項 3「平成 28 年度事業計画の内容報告の件」について担当副会長より、報告事項 4「平成 28 年度収支予算の内容報告の件」について担当理事より報告があった。

引き続き、議長は決議事項の審議に入ることとし、第 1 号議案「定款一部変更の件」について担当副会長より説明があり、委任状を含め総代議員の議決権の 3 分の 2 以上の賛成を得て原案どおり承認可決された。なお、承認可決された定款一部変更内容は、下記のとおりであり、本件定款変更の効力発生日は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 11 条に基づく認定があった日からである。第 2 号議案「理事 14 名選任の件」では、本総会終結の時をもって、理事 14 名が任期満了により、また理事 1 名が辞任により退任するので、役員候補推薦・調整委員会から推薦された理事候補者 14 名について専務理事より説明があり、議長は定款第 19 条第 3 項の定めにより候補者ごとに議場に賛否を求め、候補者全員が原案どおり承認可決された。第 3 号議案「監事 1 名選任の件」について、専務理事より、監事 1 名が任期満了により退任するので、役員候補推薦・調整委員会から推薦され、監事が同意した監事候補者 1 名について説明があり、原案どおり承認可決された。第 4 号議案「名誉会員推挙の件」は、担当副会長より、5 名の推挙について説明があり、原案どおり承認可決された。

以上をもって、第 49 回定時社員総会の議事はすべて終了し、閉会した。

平成 27 年度事業報告、同計算書類報告、平成 28 年度事業計画、同収支予算の概要は、下記のとおりである。（注：計算書類報告の貸借対照表内訳表、正味財産増減計算書内訳表、財産目録については、ホームページをご覧ください）

なお、社員総会終了後に臨時理事会を開催し、会長、副会長（2 名）、専務理事を選定した。平成 28 年度の役員は左記のとおりである。

また、社員総会終了後、引続き同会場において、名誉会員および終身会員の称号の贈呈、2016 年日本コンクリート工学会賞の贈呈、特別講演および懇親会が行われた。

＊

定款一部変更内容

現行定款第 4 条の内容につき、公益目的事業の拡充を図るために助成金事業の追加を行うとともに、本議案に係る定款変更の効力発生日に関する附則の新設を行うものであり、変更の内容は次のとおり。

現行定款	変更案
（事業） 第 4 条 本学会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。 （1）コンクリートに関する調査研究 （2）コンクリートに関する研究成果の普及 （3）コンクリート技術の標準化 （4）会誌、研究報告及び資料の刊行 （5）講演会、講習会及び研究会の開催 （6）情報の収集、紹介及び交換	（事業） 第 4 条 本学会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。 （1）～（9）（現行どおり）

現行定款	変更案
(7) コンクリートに関する表彰、奨励	
(8) コンクリートに関する啓発及び広報活動	
(9) 国内外のコンクリートに関する組織への参加及びその活動に対する協力	
(10) コンクリートに関する技術向上をはかるための資格付与と教育	(10) コンクリートに関する研究等助成
(11) その他本学会の目的を達成するために必要な事業	(11)～(12) (現行 10 号及び 11 号の号数繰下げ)
2. 前項の事業は、日本全国及び海外において行うものとする。	2. (現行どおり)
附則 (新設)	附則 4. <u>第 4 条の変更は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 11 条に基づく認定があった日から施行する。</u> <u>なお、本項の規定は、施行日を</u> <u>もって自動的に削除される。</u>

平成 27 年度事業報告の概要

I 会 務 運 営

(1) 総 会

第 48 回定時社員総会を平成 27 年 6 月 10 日（水）14 時 30 分から、東京都千代田区・都市センターホテルにおいて開催し、下記の議案を付議した。出席代議員数は 75 名（うち委任状出席 54 名）で、定款第 19 条第 1 項に定める定足数（総代議員数 77 名の過半数以上）および定款第 19 条第 2 項に定める 3 分の 2 以上の定足数を要する定款一部変更議案についてもこれを充足しており、社員総会が成立した。

- i) 平成 26 年度事業報告、同計算書類、平成 27 年度事業計画、同収支予算をそれぞれ報告した。
- ii) 定款第 12 条の内容に関し、名誉会員の称号の他に称号の新設を行うとともに定款第 25 条に関し、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の改正に伴う所要の変更を行う定款一部変更の件について、原案どおり承認、可決した。
- iii) 任期満了に伴う理事の選任については、原案どおり理事 14 名を承認、可決した。
- iv) 任期満了に伴う監事の選任については、原案どおり監事 1 名を承認、可決した。
- v) 13 名に名誉会員の称号を授与する提案を、原案どおり承認、可決した。

(2) 理 事 会

1) 定例理事会

定例理事会を 5, 6, 7, 8, 10, 12, 2, 3 月の合計 8 回開催した。主要な処理事項は、次のとおりである。

- i) 平成 26 年度事業報告、同計算書類等、平成 27 年度事業計画、同収支予算を審議・承認した。
- ii) 会員の入退会を承認した。
- iii) 2015 年日本コンクリート工学会賞受賞者として、論文賞 4 点（受賞者 19 名）・技術賞 3 点（受賞者 12 名）・作品賞 5 点（受賞者 22 名）・奨励賞 6 点（受賞者 6 名）および功労賞 14 名を決定した。

iv) 2015 年度コンクリート技士・同主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者を決定した。

2) 臨時理事会

臨時理事会を平成 27 年 6 月 10 日に開催して、二羽淳一郎理事を副会長に選任した。

(3) 登録関連事項

[登記]

- 1) 平成 27 年 6 月 15 日に、役員の変更登記（一部改選）および会計監査人の重任登記を完了した。

[内閣府関係]

- 1) 平成 27 年 6 月 26 日に、平成 26 年度事業報告および平成 26 年度財務諸表等の資料を内閣府に提出した。
- 2) 平成 27 年 7 月 3 日に、理事 12 名が任期満了し、1 名が辞任により退任することによる理事 14 名の選任、並びに監事 1 名が任期満了により退任することによる監事 1 名の選任の変更届出書を内閣府に提出した。
- 3) 平成 27 年 7 月 3 日に、第 48 回定時社員総会にて決議した定款の一部変更に関する変更届出書を内閣府に提出した。
- 4) 平成 28 年 3 月 31 日に、平成 28 年度事業計画および平成 28 年度収支予算書を内閣府に提出した。

(4) 委 員 会

委 員 会	委員長	委員数	WG 数	委員会開催数	
				委員会	WG 等
企画調整委員会	三橋 博三	9	－	7	－
総務財務委員会	小川 賢治	8	－	3	－
定款・規則改定委員会	小川 賢治	9	－	2	－
役員候補推薦・調整委員会	和泉 信之	16	－	2	－
学会賞選考委員会	芳村 学	20	2	2	4
選挙管理委員会	大即 信明	12	－	0	－
中長期事業計画策定委員会	芳村 学	13	－	5	－
研究委員会	倉本 洋	19	1	3	2
技術委員会	芳村 学	13	－	2	－
標準化委員会	芳村 学	12	－	2	－
資格・講習委員会	二羽淳一郎	15	－	3	－
国際委員会	前川 宏一	10	－	3	－
図書編集委員会	大久保孝昭	4	－	0	－
支部長会議	小川 賢治	12	－	2	－
広報普及委員会	小川 賢治	10	－	1	－
コンクリート工学編集委員会	大久保孝昭	36	12	11	13
コンクリート工学論文集編集委員会	橋高 義典	20	－	6	－
ACT 編集委員会	前川 宏一	13	－	7	－
文献調査委員会	古賀 一八	21	2	11	16
コンクリート工学年次大会委員会	芳村 学	11	－	2	－
コンクリート工学年次大会 2015（千葉）実行委員会	睦好 宏史	68	3	8	1
コンクリート工学年次大会 2016（博多）実行委員会	佐藤 嘉昭	67	6	12	5
コンクリート工学年次論文査読委員会	岸 利治	39	－	3	1

コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会	濱 幸雄	25	3	1	16
あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立と設計の高度化研究委員会	国枝 稔	23	4	4	14
コンクリート構造のせん断力に対する包括的照査技術研究委員会	渡辺 忠朋	15	2	2	8
コンクリートの確実な施工のための PDCA サイクル研究委員会	綾野 克紀	22	4	2	16
接着系あと施工アンカーの耐アルカリ性試験方法研究委員会	中村 光	19	1	6	6
実構造物への適用性を重視したセンサ技術の調査と体系化研究委員会	大久保孝昭	20	3	3	4
性能規定に基づく ASR 制御型設計・維持管理シナリオに関する研究委員会	山田 一夫	20	3	4	4
構造物の耐久性向上のためのブリーディング制御に関する研究委員会	十河 茂幸	20	3	3	16
高温環境下におけるコンクリートの性能評価に関する研究委員会	兼松 学	27	3	5	5
建設分野へのジオポリマー技術の適用に関する研究委員会	一宮 一夫	22	3	3	6
供用不可まで劣化破損が進行したコンクリート構造物の補修・補強工法に関する研究委員会	野口 貴文	26	3	3	13
マスコンクリートソフト作成委員会	小野 定	21	1	5	4
コンクリートにおける未利用資源の利用拡大に関する特別委員会	久田 真	29	－	7	2
コンクリート基本技術調査委員会	十河 茂幸	40	5	1	21
コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会	武若 耕司	15	2	2	6
マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂委員会	佐藤 良一	42	5	1	35
サステイナビリティ委員会	野口 貴文	24	6	2	11
コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会	早川 光敬	30	4	2	9
コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント JIS 原案作成委員会	堺 孝司	19	1	7	1
ISO/TC 71 対応国内委員会	勅使川原正臣	72	6	3	23
JCI 規準委員会	十河 茂幸	5	－	1	－
JCI 創立 50 周年記念事業実行委員会	丸山 久一	24	5	1	9
JCI-ACI Collaboration Committee	丸山 久一	10	－	5	－
コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会	大即 信明	18	3	2	－
電子情報化委員会	八十島 章	6	－	1	－

情報コミュニケーション委員会	甲斐 芳郎	25	－	5	－
国際ワークショップ実行委員会	佐藤 良一	29	3	3	5
終身会員およびフェロー会員審査委員会	丸山 久一	5	－	4	－
助成金検討委員会	魚本 健人	11	－	1	－
コンクリート技術講習委員会	岡本 享久	14	1	2	4
コンクリート技士試験委員会	宇治 公隆	31	5	2	19
コンクリート技士研修委員会	畑中 重光	21	2	3	9
コンクリート診断士講習委員会	大久保孝昭	21	1	2	4
コンクリート診断士試験委員会	橘高 義典	50	5	1	37
コンクリート診断士研修委員会	河辺 伸二	27	1	2	2
ACF（アジアコンクリート連盟）対応委員会	横田 弘	15	－	2	－
計		1 300	114	200	351
				551	

Ⅱ 公益目的事業

〔公 1 コンクリートに関する調査研究事業〕

1. 調査研究事業

- (1) 研究委員会所管の委員会
 - (A) 平成 27 年度で終了した研究専門委員会
 - 1) コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会 (平成 26～27 年度)
 - 2) あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立と設計の高度化研究委員会 (平成 26～27 年度)
 - 3) コンクリート構造のせん断力に対する包括的照査技術研究委員会 (平成 26～27 年度)
 - 4) コンクリートの確実な施工のための PDCA サイクル研究委員会 (平成 26～27 年度)
 - 5) 接着系あと施工アンカーの耐アルカリ性試験方法研究委員会 (平成 26～27 年度)
 - (B) 平成 28 年度に継続する研究専門委員会
 - 1) 実構造物への適用性を重視したセンサ技術の調査と体系化研究委員会 (平成 27～28 年度)
 - 2) 性能規定に基づく ASR 制御型設計・維持管理シナリオに関する研究委員会 (平成 27～28 年度)
 - 3) 構造物の耐久性向上のためのブリーディング制御に関する研究委員会 (平成 27～28 年度)
 - 4) 高温環境下におけるコンクリートの性能評価に関する研究委員会 (平成 27～28 年度)
 - 5) 建設分野へのジオポリマー技術の適用に関する研究委員会 (平成 27～28 年度)
 - 6) 供用不可まで劣化破損が進行したコンクリート構造物の補修・補強工法に関する研究委員会 (平成 27～28 年度)
- (2) 技術委員会所管の委員会
 - 1) マスコンクリートソフト作成委員会 (平成 27～28 年度)
 - 2) コンクリート基本技術調査委員会 (平成 26～27 年度)
 - 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会 (平成 26～27 年度)
 - 4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂委員会 (平成 26～27 年度)

貸 借 対 照 表

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現 金 預 金	327 426 839	346 550 768	▲19 123 929
未 収 金	10 552 420	7 257 252	3 295 168
前 払 金	44 433 104	37 710 677	6 722 427
棚 卸 資 産	14 789 423	10 904 384	3 885 039
流動資産合計	397 201 786	402 423 081	▲5 221 295
2. 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
定 期 預 金	250 000 000	250 000 000	-
基本財産合計	250 000 000	250 000 000	-
(2) 特 定 資 産			
退職給付引当預金	51 349 700	45 938 000	5 411 700
減価償却引当預金	31 220 000	31 220 000	-
資格付与事業積立預金	175 000 000	175 000 000	-
創立 50 周年記念事業積立預金	-	30 000 000	▲30 000 000
会員システム構築積立預金	24 000 000	24 000 000	-
ISO/TC 71 総会開催費用積立預金	5 000 000	-	5 000 000
事務所原状回復費用積立預金	19 440 000	-	19 440 000
特定資産合計	306 009 700	306 158 000	▲148 300
(3) その他固定資産			
什 器 備 品	18 745 431	14 192 883	4 552 548
造 作 設 備	105 068	148 928	▲43 860
ソ フ ト ウ ェ ア	13 367 397	10 992 500	2 374 897
リ ー ス 資 産	1 058 400	2 469 600	▲1 411 200
電 話 加 入 権	438 451	438 451	-
差 入 保 証 金	58 536 000	58 536 000	-
その他固定資産計	92 250 747	86 778 362	5 472 385
固定資産合計	648 260 447	642 936 362	5 324 085
資 産 合 計	1 045 462 233	1 045 359 443	102 790
II 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
未 払 金	45 896 537	39 959 326	5 937 211
預 り 金	1 203 198	1 358 278	▲155 080
前 受 金	164 162 696	171 891 800	▲7 729 104
賞 与 引 当 金	12 835 250	12 531 611	303 639
流動負債合計	224 097 681	225 741 015	▲1 643 334
2. 固 定 負 債			
退職給付引当金	51 349 700	45 938 000	5 411 700
リ ー ス 債 務	1 058 400	2 469 600	▲1 411 200
資 産 除 去 債 務	19 440 000	-	19 440 000
固定負債合計	71 848 100	48 407 600	23 440 500
負 債 合 計	295 945 781	274 148 615	21 797 166
III 正 味 財 産 の 部			
一 般 正 味 財 産	749 516 452	771 210 828	▲21 694 376
(うち基本財産充当額)	(250 000 000)	(250 000 000)	(-)
(うち特定財産充当額)	(235 220 000)	(260 220 000)	(▲25 000 000)
正味財産合計	749 516 452	771 210 828	▲21 694 376
負債及び正味財産合計	1 045 462 233	1 045 359 443	102 790

5) サステイナビリティ委員会 (平成 26～27 年度)

(3) 支部研究委員会

- 1) (北海道支部) 積雪寒冷地の既存コンクリート構造物に適用する非破壊・微破壊試験方法研究委員会
- 2) (北海道支部) 積雪寒冷地におけるコンクリート補修工法の設計施工に関する研究委員会
- 3) (東北支部) 寒中コンクリートの品質確保に関する研究委員会

正 味 財 産 増 減 計 算 書

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
一般正味財産増減の部			
1. 経 常 増 減 の 部			
(1) 経 常 収 益			
基 本 財 産 運 用 益			
基本財産受取利息	62 955	56 470	6 485
特 定 資 産 運 用 益			
特定資産受取利息	78 838	69 412	9 426
受 取 会 費			
受 取 入 会 金	647 000	565 000	82 000
受 取 会 費 益	101 812 900	102 262 500	▲449 600
事 業 収 益			
受託研究事業収益	14 580 560	9 165 798	5 414 762
出 版 事 業 収 益	46 086 499	55 865 571	▲9 779 072
会誌発行事業収益	6 371 785	6 509 535	▲137 750
年次大会事業収益	22 512 500	22 387 000	125 500
講演会等事業収益	26 939 080	26 110 536	828 544
国際会議事業収益	17 677 000	-	17 677 000
技士・主任技士事業収益	331 344 801	306 658 480	24 686 321
診 断 士 事 業 収 益	235 431 530	211 285 130	24 146 400
テクノプラザ他事業収益	41 688 000	30 240 000	11 448 000
雑 収 益			
受 取 利 息	78 243	76 571	1 672
印 税 収 益	733 392	3 393 595	▲2 660 203
雑 収 益	2 535 354	2 199 032	336 322
経常収益計	848 580 437	776 844 630	71 735 807
(2) 経 常 費 用 事 業 費			
調 査 研 究 事 業 費	97 537 990	102 057 758	▲4 519 768
標 準 化 事 業 費	30 037 014	25 065 028	4 971 986
国 際 化 事 業 費	16 692 433	13 756 915	2 935 518
受託研究事業費	12 271 979	7 377 162	4 894 817
出 版 事 業 費	43 029 248	48 914 567	▲5 885 319
会誌発行事業費	98 559 279	95 603 187	2 956 092
広 報 事 業 費	69 903 496	25 233 493	44 670 003
年次大会事業費	70 681 915	58 610 549	12 071 366
講演会等事業費	45 050 119	42 135 538	2 914 581
国際会議事業費	20 747 309	-	20 747 309
表 彰 事 業 費	10 875 859	7 965 508	2 910 351
技士・主任技士事業費	147 151 782	133 489 916	13 661 866
診 断 士 事 業 費	137 894 117	140 164 659	▲2 270 542
テクノプラザ他事業費	13 596 170	8 344 109	5 252 061
管 理 費			
人 件 費	14 005 354	13 345 173	660 181
会 議 費	20 900 161	20 808 694	91 467
事 務 費	21 287 450	15 886 180	5 401 270
経常費用計	870 221 675	758 758 436	111 463 239
当期経常増減額	▲21 641 238	18 086 194	▲39 727 432
2. 経 常 外 増 減 の 部			
(1) 経 常 外 収 益	-	-	-
経常外収益計	-	-	-
(2) 経 常 外 費 用			
固 定 資 産 除 却 損	53 138	103 466	▲50 328
経常外費用計	53 138	103 466	▲50 328
当期経常外増減額	▲53 138	▲103 466	50 328
当期一般正味財産増減額	▲21 694 376	17 982 728	▲39 677 104
一般正味財産 期首残高	771 210 828	753 228 100	17 982 728
一般正味財産 期末残高	749 516 452	771 210 828	▲21 694 376

- 4) (東北支部) 塩害外力の評価方法と評価結果の分析・利活用研究委員会
- 5) (中部支部) 東海地方における巨大コンクリート像の劣化状況に関する調査研究委員会
- 6) (中部支部) 高度成長期に建造された構造物の耐震・耐久性評価方法の標準化に向けた調査研究委員会
- 7) (近畿支部) 暑中コンクリート工事の現状と対策に関する研究専門委員会
- 8) (中国支部) ポーラスコンクリートの耐久性の把握およびその向上に関する研究委員会
- 9) (中国支部) 中国地方における骨材のアルカリシリカ反応の実態調査研究委員会
- 10) (四国支部) 各種混和材料のコンクリートへの積極利用による高性能の付与に関する研究委員会
- 11) (四国支部) 四国の生コン技術力活性化委員会【第2期】
- 12) (四国支部) 四国のコンクリート構造物インフラドックの実現に向けた調査研究委員会
- 13) (九州支部) 建設材料としてのジオポリマーに関する研究専門委員会
- 14) (九州支部) 長期暴露コンクリートの試験体の劣化評価研究専門委員会
- 15) (九州支部) コンクリート埋込アンカーの信頼性向上研究成果報告委員会
- 16) (九州支部) 吹付け工法における施工と品質の評価手法研究成果報告委員会

※研究専門委員会、技術委員会等の活動報告

- (1-A-1) JCI-TC 141 A コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会 (平成 26～27 年度)

本研究委員会は、コンクリート中の気泡の役割、評価手法および制御技術に関する研究動向を調査すると共に、実構造物における気泡分布調査、コンクリートの運搬・締固めが気泡分布に及ぼす影響に関する施工試験および気泡間隔係数測定のパウンドロピネテストを行い、これらの調査・研究結果を報告書として取りまとめた。

また、6月26日に「コンクリート中の気泡の役割・制御に関するシンポジウム」を開催し、初年度の活動成果を公表するとともに、一般論文発表の場を設けて関連情報の収集を行った。

- (1-A-2) JCI-TC 142 A あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立と設計の高度化研究委員会 (平成 26～27 年度)

あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立および設計へのフィードバックを目的に、以下に示す3つのWGを設置し活動を行った。①文献調査WG：最近20年を対象とした学術論文(国内、海外)の調査、②技術調査WG：最近のアンカーに関する技術や試験方法についての取りまとめ、③設計WG：国内外の各機関が保有する設計方法(設計の前提、作用、安全係数、照査方法、照査式など)の比較。

- (1-A-3) JCI-TC 143 A コンクリート構造のせん断力に対する包括的照査技術研究委員会 (平成 26～27 年度)

せん断問題に関する近年の研究成果を整理した上で、鉄筋コンクリート構造物のせん断に対する照査法の高度化に資する情報を提供することを目的に、土木・建築分野の各種せん断耐力算定法の整理と合理的な設計および照査法を検討するマクロ式WGと、非線形解析技術を用いて構造物のせん断破壊挙動の解明を試みるFEMWGにおいて、それぞれ土木・建築分野のせん断耐力算定式(マクロ式)や非線形有限要素解析のせん断問

題に対する適用例について審議し、せん断破壊挙動の新たな評価法の提案に向けた検討を行った。

- (1-A-4) JCI-TC 144 A コンクリートの確実な施工のためのPDCAサイクル研究委員会 (平成 26～27 年度)

スランブと空気量を目安としたコンクリートの品質管理に基づく現状の施工に対し、新たに提案されている試験法等も用いたより確実なコンクリートの施工を目指し、施工のPDCAサイクルのあり方を検討した。現場で用いられるコンクリートが設計時に設定された施工性能を満足するものか確認し、基準を外れた場合はそれを修正する現場レベルでのPDCAと、設計時に設定されたコンクリートの施工性能に基づき作成された施工計画で施工された構造物を竣工時に確認することにより、次の施工においてより良い施工計画を立案する計画レベルでのPDCAサイクルのあり方を審議し、PDCAの各段階で用いることができる技術を整理・検討した。

- (1-A-5) JCI-TC 145 C 接着系あと施工アンカーの耐アルカリ性試験方法研究委員会 (平成 26～27 年度)

(一社)日本建築あと施工アンカー協会からの委託に基づき、接着系あと施工アンカーの固着力における長期的な耐アルカリ性を評価する信頼性の高い試験方法(案)を公表することを目的として活動を行った。材料レベル(樹脂の曲げ試験)、アンカーレベル(アンカーの付着試験)の2つのレベルの試験を、各種要因を変えて耐アルカリ抵抗性が異なる2種類の樹脂で行い、既往の知見の検討結果と独自に行った試験結果に基づき、「接着系あと施工アンカー用樹脂の耐アルカリ性試験方法(試案)」と「接着系あと施工アンカーの耐アルカリ性試験方法(試案)」を作成した。作成した試験方法(試案)を3月31日に委託元に提出した。

- (1-B-1) JCI-TC 151 A 実構造物への適用性を重視した各種センサ技術の調査と体系化研究委員会 (平成 27～28 年度)

本研究委員会は、「数十年後の土木構造物・建築物には多くの種類のセンサが設置され、構造物の利用者や管理者が計測データを有効活用しながら構造物の供用を行っていること」を想定し、その基盤を構築するための調査研究を下記の3つのWGを組織して実施した。

- WG1：センサ技術を駆使した建設生産・維持管理の将来像分析(ニーズ整理と技術体系化)

- WG2：センサ・計測・ネットワーク技術の動向調査(シーズ技術調査)

- WG3：点検・モニタリングデータの保管技術とその活用方法(データ活用)

WG1では、実構造物で計測する測定対象をニーズの観点から約150項目の技術を抽出し、このニーズ技術内容の精査を行った。WG2ではシーズ技術把握の観点から、センサ製造メーカーや計測コンサルに対するヒアリング計画を立案し、次年度は主要なセンサ企業にヒアリングを実施するとともに、数十社に書面のアンケート調査を実施する方針を定めた。WG3では、計測されたデータの保管や活用方法について、具体的な技術の整理を開始した。

- (1-B-2) JCI-TC 152 A 性能規定に基づくASR制御型設計・維持管理シナリオに関する研究委員会 (平成 27～28 年度)

本研究委員会は、コンクリート構造物の重要度と要求性能に応じたアルカリシリカ反応(ASR)の「制御」型設計、および維持管理への連係シナリオの確立を目的に、ASR発生可能性

を評価するコンクリートの配合試験の高度化を検討し、その結果から従来にはない長期的な膨張予測の試み、すなわち性能試験手法の開発を行った。あわせて、既存の JCI-ASR 関連規準 (JCI AAR-3, DD 2) の改正案を JCI 規準委員会に提出した。また、補修・補強対策の耐久性設計への活用を念頭に、対策後の耐久性データの収集も開始した。さらに、ASR 発生後の対応を考え、膨張予測を組み入れた将来の構造性能評価をもとにした構造物の合理的なマネジメントを目指し、数値計算による構造解析の最新情報の収集と課題を整理した。最新情報収集と情報共有化のため、ASR により劣化した構造物の管理を実際に行っている有識者を招聘し、国際ワークショップを開催した。

(1-B-3) JCI-TC 153 A 構造物の耐久性向上のためのブリーディング制御に関する研究委員会

(平成 27~28 年度)

本研究委員会は、コンクリートに生じるブリーディングが構造物に及ぼす影響を研究する委員会であり、影響調査 WG、制御技術 WG、試験方法 WG の 3 WG で活動した。各 WG では、既往の研究を調査し、自主的な実験を行って情報の整理を行った。また、最新の情報を収集するためにコンクリートのブリーディング制御に関するシンポジウムを開催した。

(1-B-4) JCI-TC 154 A 高温環境下におけるコンクリートの性能評価に関する研究委員会 (平成 27~28 年度)

高温環境下におけるコンクリートの性能評価を目的として、爆裂抵抗性評価手法および火害後のコンクリートの性能評価手法の開発・提案を対象として、2つの WG を設けて検討した。①コンクリートの爆裂抵抗性試験方法 WG: 爆裂抵抗性試験方法の規格化を最終目標として、海外の活動状況の情報収集を行うとともに、規格化に向けた基礎資料を得ることを目的として共通試験を実施した。②火害後のコンクリートの耐久性評価 WG: 非破壊試験およびセメントの化学的分析により、火害を受けたコンクリートの損傷評価に関する実験を実施し、現場における火害診断試験方法について検討した。加えて、高温作用下におけるコンクリートの挙動および損傷メカニズムについて調査を開始した。

(1-B-5) JCI-TC 155 A 建設分野へのジオポリマー技術の適用に関する研究委員会 (平成 27~28 年度)

本研究委員会は、ジオポリマーに関する既往の研究成果を結集し、迅速かつ効率的なジオポリマー研究の深化を図ることを目的としており、ジオポリマー技術に関する研究成果ならびに諸外国の研究の動向等に関する情報を共有するとともに、最新情報の理解ならびに課題等を明らかにした。

また、3つの WG (WG 1: 反応機構, WG 2: 力学特性・耐久性・構造設計, WG 3: 製造・施工) を立ち上げて、項目ごとの研究開発の現状ならびに課題の抽出作業を開始した。

(1-B-6) JCI-TC 156 C 供用不可まで劣化破損が進行したコンクリート構造物の補修・補強工法に関する研究委員会 (平成 27~28 年度)

長崎県・端島に残存する鉄筋コンクリート構造物の保存方策の提案に資する資料を整備することを目的として、補修 WG、補強 WG および施工 WG で活動した。補修 WG では、文化財に対する補修の考え方の整理を行うとともに、鉄筋腐食による劣化のグレードごとに復元、腐食停止および腐食進行抑制それぞれを目標とする補修工法の整理を行った。補強 WG では、鉄筋腐食による鉛直荷重支持性能および水平荷重支持性能の低下度合いに応じて適用可能な既存の補強技術の抽出を行った。施工 WG では、補修工事・補強工事における重機・資材等の陸揚

げ・移送・設置の方法について、技術面・工期面・費用面・安全面などの観点から長所・短所の整理を行った。それらの結果を取り纏めて第 1 次報告書を作成した。

(2-1) マスコンクリートソフト作成委員会

本年度における主な活動成果は、以下のとおりである。① JCMAC 3-U (温度および乾燥収縮ひび割れを考慮した保有耐力解析が実施できるソフト) を作成しレンタルを開始した。② JCMAC 1・2 のリリースを行った。③ JCMAC 1, 2 および 3 のサポート業務を行った。④ JCMAC 3 の講習会を開催 (仙台、東京で開催) した。⑤ JCMAC の普及活動を行った。

(2-2) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリートに関する基本技術に有用な情報を提供することを目的に活動した。「準備工」「打込み・締固め」「製造」「養生」「品質管理・検査」の 5 WG において基本技術の整理を行った。このうち、準備工 WG では、型枠・支保工の実状を調査し、製造 WG では生コンの受入れ時の課題など喫緊の課題を調査した。養生 WG では、これまでに調査した結果を取りまとめ、平成 28 年度に報告会を行うように計画している。打込み・締固め WG、品質管理・検査 WG では、次年度の活動に向けた企画を行った。

(2-3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

本委員会で開発・リリースした「LECCA 1」, 「LECCA 2」および「LECCA 2 Lite」の 3 種の「コンクリート構造物長期劣化シミュレーションソフト」を高性能化した新たなソフト「LECCA 2-RW」と「LECCA 2-Plus」の開発に取り組み、基本プログラムを完成させた。また、リリースに向けた準備を行った。「LECCA 2-RW」は、構造物部位に付着する塩化物イオン量の分布をシミュレーションするソフトであり設計時点での劣化部位を特定することが可能となる。また、「LECCA 2-Plus」は、コンクリートの劣化における水分移動の影響および塩害と中性化の複合劣化、等の影響を考慮できるソフトである。

(2-4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂委員会

既存の制御指針 2008 を改訂し、「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2016」の原案を作成した。改訂の主たる内容は、エトリングaitの遅延生成によるひび割れ制御の照査を初めて取り込んだこと、若材齢時の物性の設計用値を単位セメント量 550 kg/m^3 の範囲まで拡大したこと、より精度の高い温度ひび割れ指数の簡易評価式を提示したこと、施工と管理および検査に関わる内容を充実させたこと、海外での制御指針の利用に有用な資料を充実させたこと等である。また、国際ワークショップ (2017 年 4 月開催) の準備のための JCI-RILEM 国際ワークショップ実行委員会の立ち上げをサポートした。

(2-5) サステイナビリティ委員会

教科書検討 WG、評価指標検討 WG、評価ツール検討 WG、環境土検討 WG、およびサステイナビリティフォーラムで活動した。教科書検討 WG では「コンクリートの環境テキスト (案)」を 11 月に刊行するとともに試験問題案の精査を行い、評価指標検討 WG ではサステナビリティ宣言 8 項目に対する具体的な評価指標 (案) に関する考え方の取り纏めを行い、評価ツール検討 WG ではコンクリートに関わる環境負荷原単位がデータベースとして実装された評価ツール「CLCA (Concrete LCA)」の開発を行い、環境土検討 WG では「コンクリート環境土 (仮称)」資格制度の創設に向けて「コンクリート環境土資格制度の創設に関する提言書 (改訂版)」の取り纏めを行った。また、サステイナビリティフォーラムでは周辺業界からのサステイナ

ビリティ志向社会におけるコンクリートに対する意識についてのヒアリング、フォーラム構成団体との意見交換会および会員向けのシンポジウムを開催した。

2. 標準化事業

(1) 標準化委員会

「日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規定」の改正について審議した。また、JCI 標準委員会と標準化委員会の委員からなる合同委員会において、アルカリシリカ反応に関する2つのJCI 規準（原案）を審議した。

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

次のJISについて、改正審議を終了し改正原案を作成した。

- ・ JIS A 1118 フレッシュコンクリートの単位容積質量試験方法及び空気量の容積による試験方法（容積方法）
- ・ JIS A 1145 骨材のアルカリシリカ反応試験方法-化学法-
- ・ JIS A 1146 骨材のアルカリシリカ反応試験方法-モルタルバー法-
- ・ JIS A 1149 コンクリートの静弾性係数試験方法

また次のJISについて、改正の必要性に関する関係機関へのアンケートや、具体的な修正に関する検討を実施した。

- ・ JIS A 1107 コンクリートからのコア採取方法及び圧縮強度試験方法
- ・ JIS A 1114 コンクリートからの角柱供試体の採取方法及び強度試験方法
- ・ JIS A 1134 構造用軽量細骨材の密度及び吸水率試験方法
- ・ JIS A 1135 構造用軽量粗骨材の密度及び吸水率試験方法
- ・ JIS A 1136 遠心力締固めコンクリートの圧縮強度試験方法
- ・ JIS A 1138 試験室におけるコンクリートの作り方
- ・ JIS A 1151 拘束されたコンクリートの乾燥収縮ひび割れ試験方法
- ・ JIS A 1152 コンクリートの中性化深さの測定方法
- ・ JIS A 1155 硬化コンクリートの反発度の試験方法

(3) コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント JIS 原案作成委員会

コンクリート及びコンクリート構造物に関わる環境側面と環境配慮のあり方の明確化および環境負荷の継続的な削減のための環境影響評価を国内で積極的に推進することを目的として、既に制定されたISO 規格の翻訳を行い、一致規格として下記2つのJIS 原案を作成した。

①コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント 第1部：基本原則

②コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント 第2部：システム境界及びインベントリデータ

なお、本事業は一般財団法人日本規格協会との原案共同作成事業（公募事業）として実施した。

(4) ISO/TC 71 対応国内委員会

1) ISO/TC 71 および各SC への対応

7月8日に韓国にて開催されたISO/TC 71/SC 8/WG 4 会合に委員を派遣した。

また、10月26日から10月29日にかけて韓国で開催されたISO/TC 71 総会および各SC に委員を派遣し、日

本から提案した規格案はじめ各種規格案等について審議した。

2) ISO/TC 71 のSC 幹事国等業務の実施

平成26年度に引き続き、ISO/TC 71 において下記の職務を実施した。

- ・ SC 5：WG 6 コンピーナ
- ・ SC 6：議長、幹事、WG 3 コンピーナ
- ・ SC 7：議長、WG 1 コンピーナ、WG 4 コンピーナ
- ・ SC 8：議長、幹事、WG 2 コンピーナ、WG 3 コンピーナ

3) ISO 規格化

日本から提案した次のISO 規格が発行された。

- ・ ISO 18319「コンクリート構造物のためのFRP 補強 -FRP シートの仕様」(2015年4月)

4) ISO 規格案 (CD, DIS, FDIS, 等) への対応

ISO/TC 71 から提案された各種規格案等の投票24件 (FDIS 投票1件, DIS 投票2件, CD 投票4件, NP 投票4件, SR 投票2件, CIB 投票8件, DTS 投票3件) に対応した。

(5) JCI 標準委員会

研究委員会から提案されたASRに関する規準（原案）に対し、合同委員会を立ち上げ、査読した。また、マスコンクリートのひび割れ制御指針の改定に対する審議を行う合同委員会を立ち上げ審議を開始した。

3. 国際協力および交流

(1) 4月13日～17日に、カンザスシティ（米国）にて、開催されたACI Spring Convention に、三橋会長および国際委員会の塩原等委員を派遣した。

(2) 5月20日に桃園（台湾）、8月3日～7日にベナン（マレーシア）、3月1日2日にプノンペン（カンボジア）にて開催されたSeminar of Practical Guideline for Investigation, Repair and Strengthening of Cracked Concrete Structures -2009- に、それぞれ、コンクリートのひび割れ補修・補強指針普及委員会の大即信明委員長ほか2名、鎌田敏郎委員ほか2名、および横田弘委員ほか2名を派遣した。

(3) 7月7日～9日、ソウル（韓国）にて、開催されたISO/TC 71 SC 8 WG 会議に、ISO/TC 71 対応国内委員会の堺孝司委員を派遣した。

(4) 7月12日に、東京にてInternational Partner Agreement between RILEM and JCI の調印式を行った。

(5) 8月29日～9月1日に、メルボルン（豪州）にて開催されたRILEM のTAC 会議に国際委員会の野口貴文委員を派遣した。

(6) 9月22日～27日に、メキシコシティ（メキシコ）にて開催されたISO/TC 59/SC 17 Plenary and working meeting にISO/TC 71 対応国内委員会の堺孝司委員を派遣した。

(7) 10月5日～9日に、コルカタ（インド）にて開催されたACF のEC 会議およびTB/TC 会議にACF 対応委員会の横田弘委員ほか2名を派遣した。

(8) 10月6日～9日に、コルカタ（インド）にて開催された1st ACF Symposium on Ultra High Performance Concrete に岐阜大学の国枝稔教授を派遣した。

(9) 10月7日～11日に、コルカタ（インド）にて開催され

た第10回 ACF Sustainability Forum に ISO/TC 71 対応国内委員会の堺孝司委員および野口貴文委員を派遣した。

- (10) 10月26日～29日に、ソウル（韓国）にて開催された第21回 ISO/TC 71 総会および各 SC に ISO/TC 71 対応国内委員会の勅使川原正臣委員長ほか9名を派遣した。
- (11) 11月18日～21日に、デンバー（米国）にて開催された ACI fall Convention および JCI-ACI ジョイントセミナー打合せに JCI-ACI Collaboration Committee の石田哲也および三木朋宏の各委員、国際委員会の塩原等委員を派遣した。
- (12) 11月26日に、イスプラ（イタリア）にて開催された SAFESUST Workshop および 11月27日、プラハ（チェコ）で開催された fib commission 7 に ISO/TC 71 対応国内委員会の野口貴文委員を派遣した。
- (13) 3月3日～9日に、パリ（フランス）にて開催された RILEM・TAC 会議、マドリード（スペイン）で開催された RILEM のポリマーセメントモルタルで補修したコンクリートの耐火性能委員会に国際委員会の野口貴文委員を派遣した。
- (14) JCI-ACI Collaboration Committee（丸山久一委員長）では、第2回 ACI-JCI ジョイントセミナーの準備および第3回同ジョイントセミナーの ACI への協力を行った。

4. 受託研究事業

（1）国際標準開発関連

三菱総合研究所（MRI）再委託（経済産業省委託）事業「平成27年度社会ニーズ（安全・安心）・国際幹事等輩出分野に係る国際標準化活動（テーマ名：コンクリート構造物の長寿命化に向けた関連技術の国際標準化）」（初年度）を遂行、日本の提案による、「コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント」、「コンクリート補強用短繊維（高分子系）材料」、「コンクリート構造物補修・補強用材料」、「コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリング」、「コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強ガイドライン」、「水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計方法」および「壁式鉄筋コンクリート造建築物の簡易耐震設計法」の7項目の国際標準開発を進めた。

また、野村総合研究所（NRI）再委託（経済産業省委託）事業「平成27年度省エネルギー等国際標準開発活動（テーマ：建築物における省エネルギー化を加速するコンクリート構造物の環境設計方法およびコンクリート製品の評価方法に関する国際標準化）」（2年目）を遂行、日本の提案による「(a) コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメントー第4部：コンクリート構造物の環境設計」、「同一第6部：コンクリート構造物の供用」の国際標準開発を進めた。

上記2件の受託事業に関し、ISO/TC 71 対応国内委員会から成果報告書を提出した。

（2）研究委員会関連

- 1) （一社）日本建築あと施工アンカー協会からの委託である「接着系あと施工アンカーの耐アルカリ性試験方法」に関する受託研究委員会は、今年度末で活動を終了し、「接着系あと施工アンカー用樹脂の耐アルカリ性試験方法（試案）」と「接着系あと施工アンカーの耐アルカリ性試験方法（試案）」を作成し、委託元に提出した。
- 2) 長崎市からの委託である「供用不可まで劣化破損が進行したコンクリート構造物の補修・補強工法」に関する受託研究委員会を、平成29年3月までの予定で活動を

開始した。今年度は、長崎県・端島に残存する鉄筋コンクリート構造物の保存方策の提案に資する資料を整備することを目的として、補修 WG、補強 WG および施工 WG で活動した。

5. 出版事業

次の論文集、研究報告書、テキスト等を刊行した。

- 1) 「コンクリート構造物の最先端診断技術に関するシンポジウム」論文集・委員会報告書
- 2) 「性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立研究委員会」報告書
- 3) 「混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究委員会」報告書
- 4) 「コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会」報告書
- 5) 「物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関する研究委員会」報告書・シンポジウム論文集（CD-ROM）
- 6) 「既設コンクリート構造物の維持管理と補修・補強技術に関する特別委員会」報告書
- 7) 「コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会」シンポジウム報告書
- 8) 「コンクリートのブリーディング制御」に関するシンポジウム、委員会中間報告・論文集
- 9) Technical Committee Reports 2015（JCI 研究委員会報告書要旨）
- 10) JCI Technical Committee Report on the Use of Sea-water in Concrete
- 11) Proceedings of the International Conference on the Regeneration and Conservation of Concrete Structures（RCCS）CD 版
- 12) コンクリート工学年次論文集 第37巻2015年（DVD 版）
- 13) コンクリート技術の要点 '15
- 14) 2015 年度コンクリート技士研修テキスト
- 15) コンクリート診断技術 '16
- 16) コンクリート診断士研修テキスト '15

6. 会誌発行事業

（1）会誌「コンクリート工学」

毎月1回刊行して会員に頒布した。

特集テーマは次のとおりである。

- 1) コンクリートの「見える化」 平成27年5月号
- 2) 創立50周年記念特集号—コンクリート工学の持続可能な発展のために— 平成27年9月号
- 3) インフラ構造物のリニューアル（更新）・修繕の計画と技術 平成28年1月号

（2）コンクリート工学論文集

オンラインジャーナルとして26巻（11月）および27巻（1月）を WEB（J-STAGE）にて公開した。

（3）英文ジャーナル 'Journal of Advanced Concrete Technology'

オンラインジャーナルとして Vol.12（No.4～No.12）および Vol.13（No.1～No.3）を WEB（J-STAGE）にて公開した。

7. 広報事業

(1) 広報活動

- 1) 会誌「コンクリート工学」、本学会パンフレット、ホームページ、子供向け冊子「教えて！コンクリートブック」等により活動状況等の広報活動を行った。
- 2) 4月9日に記者懇談会を実施し、業界各紙の記者に学会活動について説明を行った。

(2) 普及活動

- 1) 海水の有効利用に関する広報普及委員会において、2014年刊行の『コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会報告書』の英訳を行い、9月に『JCI Technical Committee Report on the Use of Seawater in Concrete』を刊行した。
- 2) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針-2013-」および、その英語訳である「Practical Guideline for Investigation, Repair and Strengthening of Cracked Concrete Structures -2013-」に対しての利用者からの質問や講演会の要請に対する対応、あるいは、ひび割れ判定ソフトの改良による用途拡大等に関する検討を行い、ひび割れ指針の普及促進を目的とした活動を行った。具体的には、以下の項目に関して活動を行った。

①指針最新版に対する質問や修正対応

- ・国内・海外講習会の準備等を通じて指摘された修正事項や読者から寄せられた質問事項への対応を行った。

②国内・海外講習会の実施

- ・新潟、広島、鹿児島にて講習会を開催した。
- ・桃園（台湾）、ペナン（マレーシア）、プノンペン（カンボジア）にて講習会を開催した。

③雑誌等による情報発信

- ・会誌10月号に、前年度に実施したマニラ（フィリピン）海外講習会の紹介記事を投稿した。

④次回改訂版の内容検討および現行指針の構造物限定版の検討

- ・次回改訂版における基本的な対応方針を具体的に整理した。
- ・構造物限定版としてマンション編を完成させた。

⑤ひび割れ判定ソフトの作成および普及

- ・Windows 8に対応可能な形式で2013年度版へ適用できる内容修正作業を完了させた。

(3) 電子情報化

本委員会で担当していた事業を新たに設立された情報コミュニケーション委員会へ引き継いだ。本委員会は今年度で終了とした。

(4) 情報コミュニケーション委員会

本委員会では、本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行った。会員や技術者に向けた有益な技術情報、コンクリートに興味のある学生への教材や講座、WEBを利用した学生と企業のコミュニケーション、学会誌のタイアップなどを盛り込んだ定期的なホームページ更新による情報発信を主要な活動項目とし、主に以下の項目に関する活動を行った。

- ・月刊コンクリート技術（一般向けコンテンツ）6月号、8月号、9月号（2編）、11月号、12月号（2編）、2月、3月の公開

- ・増刊コンクリート技術（会員向けコンテンツ）9月号、12月号、2月号の公開
- ・メールニュースの作成および配信
- ・コンクリート基本技術（不具合事例）の紹介を会員専用ページに公開
- ・研究委員会報告書を会員専用ページへの公開準備
- ・研究委員会ホームページの改訂検討

(5) JCI 創立 50 周年記念事業

JCI 創立 50 周年記念事業として以下の行事の実施、刊行物等の出版、配布を行った。

- 1) 7月12日に都市センターホテルにて関係団体および本学会と学術協定を締結している海外の団体の代表者等を招き、記念式典および祝賀会を開催した。
- 2) 本学会の新たな会員制度として終身会員およびフェロー会員を定めた。終身会員を記念式典にて表彰した。
- 3) 6月1日～3日に長崎市にて「コンクリート構造物の再生および保全に関する国際会議（RCCS）」を、また、7月13日に都市センターホテルにて3つの国際シンポジウムを開催した。
- 4) 創立50周年の記念誌「50年のあゆみ」をWEBにて公開するとともに印刷版を配布した。また、創立50周年記念写真集「くらしの中のコンクリート」をWEBにて公開した。
- 5) DVD作製部会では、「コンクリートの基礎知識」、「コンクリート技術の最前線'15」の2編のDVDを制作し、前年度に制作したJCI紹介用DVDと併せ、創立50周年式典参加者および希望する会員に配布した。また、上記2編について英語版のシナリオ制作および映像編集を行い、二か国語版マスターを完成させた。

8. 特別委員会、他

(1) 既設コンクリート構造物の維持管理と補修・補強技術に関する特別委員会

平成25年度から2年間にわたり活動した上記の特別委員会の成果を報告書としてまとめ、シンポジウムで報告した。また、活動成果の主要部分をまとめた提言をホームページおよび会誌で公表した。

(2) コンクリートにおける未利用資源の利用拡大に関する特別委員会

未利用資源の利活用推進に向けての提言を取りまとめるべく、石炭灰、鉄鋼スラグ・非鉄スラグ、再生骨材の利活用の現状を調査し、利活用推進への課題と対策を整理した。また、当委員会のメンバーが中心となって国際シンポジウム「建設材料の新たな可能性～コンクリート用未利用資源の有効利用への提言～」をJCI創立50周年記念事業の一環として7月に開催したほか、3月には主に鉄鋼スラグ・非鉄スラグの利活用状況について調査するべく、現地視察を実施した。

(3) 関連学協会との共同活動

- ①11月4日開催の建設7学会会長会議を主催した。各学会の現況と重点課題、シニア会員の活用について意見交換を行った。
- ②11月29日～12月2日、京都にて開催された第5回世界工学会議（WECC 2015）に日本工学会の1学会として3名の委員が参画した。
- ③12月21日に日本原子力学会主催の福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議に橘高義典理事を派遣した。

④1月9日、日本学術会議「東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会」主催の学術フォーラム（第11回連続シンポジウム）「巨大災害から生命と国土を護る」が開催され、三橋会長がJCIの対応状況を発表するとともに討議に参画した。標記の連絡会の活動はこのフォーラムで終了し、新たにこの活動を継承する防災学術連携体が設立された。本学会はこの防災学術連携体に参加するとともに委員として理事2名を派遣した。

[公2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2015 (千葉) を7月14日 (火) ~ 16日 (木) の3日間、幕張メッセにて開催した。

睦好宏史実行委員長の開会の辞、三橋博三会長の挨拶、芳村学副会長によるJCI活動報告に続いて次の行事を行った。

- 1) 第37回コンクリート工学講演会
講演題数 560 編 参加者 1510 名
- 2) 特別講演会 聴講者数 263 名
建築家・東京大学名誉教授
内藤 廣氏
演 題：建築とコンクリート
- 3) 生コンセミナー
テーマ：これまでの50年、これからの50年
参加者 539 名
- 4) 見学会
①豊洲新市場水産仲卸売場、免震構造高層マンション
工事現場見学 22 名
②東京外かく環状道路の建設工事現場見学 12 名
- 5) 日本コンクリート工学会賞（作品賞）受賞者による記念講演
- 6) キング・オブ・コンクリート
学生を対象とした3種の競技の実施（強度部門・ニアピン部門・曲げ靱性部門） 参加校 19 校
- 7) 大会懇親会 参加者 327 名
- 8) 年次論文奨励賞 57 名の表彰（副賞：モバイルバッテリー）

2. 講演会・講習会・シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

第48回コンクリート技術講習会を、10月1日から10月28日にかけて、全国8都市において計9開催（札幌・仙台・東京（2回）・名古屋・大阪・広島・福岡・沖縄）実施した。受講者数は、全国で776名（前年度687名）であった。

(2) シンポジウム・セミナー・報告会

- 1) 「コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会」シンポジウムを、6月26日に日本コンクリート工学会の会議室にて開催した。参加者数は、97名であった。
- 2) 「コンクリート構造物の最先端診断技術」に関するシンポジウムを7月30日、東京理科大学森戸記念館にて開催した。参加者数は118名であった。
- 3) 「物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関するシンポジウム」を9月7日に東京（芝浦工業大学豊洲キャンパス）にて、3月7日に金沢（金沢工業大学野々市キャンパス）にて開催した。参加者数は合計

165名であった。

- 4) 「既設コンクリート構造物の維持管理と補修・補強技術に関する特別委員会」報告会を9月8日に東京会場（東京大学武田ホール）にて、10月15日に大阪会場（建設交流館702会議室）にて開催した。参加者数は東京会場177名、大阪会場166名、合計343名であった。
- 5) 「混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究委員会」報告会を10月15日に東京都文京区の東京大学武田ホールにて開催した。参加者数は105名であった。
- 6) 「コンクリートサステイナビリティに関するシンポジウム—社会とコンクリート・建設産業の持続可能性—」を11月17日に東京大学武田ホールにて開催した。参加者数は、129名であった。
- 7) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針」講習会を12月2日に新潟（新潟大学駅南キャンパス）にて、3月22日に広島（IG石田学園ビル）にて、3月24日に鹿児島（鹿児島大学稲盛会館）にて開催した。参加者数は合計88名であった。
- 8) 「コンクリートサステイナビリティに関するシンポジウムⅡ—社会の持続可能性に向けた施策とコンクリート・建設産業の役割—」を3月9日に東京大学・情報学環・福武ホールにて開催した。参加者数は113名であった。
- 9) 「コンクリート構造物の維持管理・マネジメント技術の現状と今後の課題」に関する講演会を3月22日、明治記念館にて開催した。参加者数は276名であった。
- 10) 「コンクリートのフリーディング制御」に関するシンポジウムを3月23日に日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館にて開催した。参加者数は106名であった。
- 11) 「長期供用重要構造物のASRマネジメント—ダム、原子力関連施設、および放射性廃棄物処分」に関する国際ワークショップを3月29日に中央大学駿河台記念館にて開催した。参加者数は77名であった。
- (3) 支部主催のシンポジウム・セミナー・報告会
 - 1) （北海道支部）支部総会特別講演「北海道新幹線の概況他」5月19日 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 都築保勇氏
 - 2) （北海道支部）支部若手会《見学会》「当別バイパス 札幌大橋・會澤高圧コンクリート株式会社札幌工場・円山動物園外構工事」6月12日
 - 3) （北海道支部）積雪寒冷地の既存コンクリート構造物に適用する非破壊・微破壊試験方法研究委員会 6月16日
 - 4) （北海道支部）コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会 9月9日
見学先：北海道横断自動車道余市～小樽間のPC橋工事（フゴッペ川橋）・トンネル工事
 - 5) （北海道支部）コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座 10月9日
 - ①「リサイクル材料を用いた埋戻し材用低強度モルタルの特性」
北海道職業能力開発大学校 佐藤重悦氏
 - ②「フライアッシュの高強度コンクリートへの適用」
室蘭工業大学 菅田紀之氏
 - 6) （北海道支部）平成27年度若手会技術交流会 2月19日
 - 7) （東北支部）第11回「コンクリート診断士の技術研鑽

- のための勉強会」10月28日
見学会：「復興道路 国道45号 三陸沿岸道路 釜石山田道路」
特別講演：
・「国際会議 MSLB 2015 報告」（多径間長大橋梁）
・「伸縮装置・支承および排水」
秋田大学 川上 洵氏
現場見学：1) 赤平橋, 2) 戸島ランプ橋
- 8) (関東支部) 支部総会特別講演会「ボスボラス海峡横断鉄道トンネルプロジェクト～海底をわたる風～」5月15日 大成建設(株) 今石 尚氏
- 9) (関東支部) 支部総会特別講演会「軍艦島の歴史などを含めたコンクリート工学」5月15日 芝浦工業大学 濱崎 仁氏
- 10) (関東支部) 東京地区：講習会「激甚災害軽減化に対する取り組み～E-ディフェンスでのRC建物の崩壊実験と健全度モニタリング～」8月28日
- 11) (関東支部) 埼玉地区：講習会「コンクリート構造物の補修工法に関する講習会」2月25日
- 12) (関東支部) 栃木地区：講習会「栃木地区研究発表会」3月7日
- 13) (関東支部) 千葉地区：講習会「フレッシュコンクリートの施工性能に関する講習会」3月12日
- 14) (中部支部) 見学会「第11回学生研修会」9月11日・12日
(株)日本ピーエス PC 工場, 十郷橋, 福井県恐竜博物館, 永平寺
- 15) (中部支部) 講演会「歴史的鉄筋コンクリート造建築物の今と行く末を考える」2月12日
・「高度成長期以前の鉄筋コンクリート造建築物の現状と今後の展望」
東京大学 野口貴文氏
・「旧国立霞が丘競技場の調査」
東京理科大学 兼松 学氏
・「軍艦島構造物群の調査」
東京理科大学 今本啓一氏
- 16) (中部支部) 「コンクリートの品質向上に関する講習会」2月16日
・「暑中期におけるコンクリートの品質について」
全国生コンクリート工業組合連合会 伊藤 司氏
・「レディーミクストコンクリート用骨材の実態について」
特定非営利活動法人コンクリート技術支援機構 吉兼 亨氏
- 17) (近畿支部) 特別講演会「暑中における受入れ時のコンクリート温度について」6月1日 (株)竹中工務店 岩清水隆氏
- 18) (近畿支部) 若手研究プロジェクト推進 WG シンポジウム 6月8日
- 19) (近畿支部) セメント・コンクリート関西発表会 2015 (共催：コンクリート研究会) 10月28日
- 20) (近畿支部) 親子体験教室「コンクリートっておもしろい」10月4日
- 21) (近畿支部) 工場見学会 (共催：コンクリート研究会) 11月4日
場所：新日鐵住金, 和歌山製鉄所
- 22) (近畿支部) 高架橋建設現場見学会 11月10日
場所：京奈和自動車道, 紀北西道路
- 23) (中国支部) JCI 中国支部 第5回講演会 4月3日
①特別講演「コンクリートの土砂化とその対策」
岡山大学大学院 綾野克紀氏
②講演1「コンクリート構造物の凍害劣化と診断手法」
松江工業高等専門学校 周藤将司氏
③講演2「透水・脱水工法によるコンクリートの品質改善について」
広島工業大学 坂本英輔氏
- 24) (中国支部) 特別講演会「既存建物の耐震性能評価」5月26日 広島工業大学 荒木秀夫氏
- 25) (中国支部) 研究委員会報告「コンクリート構造物の目視点検への情報技術活用調査研究委員会報告」5月26日 (株)構造物クリニック 江本久雄氏
- 26) (中国支部) JCI 中国支部 第6回講演会 11月25日
①特別講演「マスコンクリートの環境影響とその評価」
広島大学大学院 河合研至氏
②講演1「低炭素社会・国土強靱化のためのセメント系材料の開発」
島根大学大学院 新 大軌氏
③講演2「既存超高層RC造建物の保有耐震性能指標値」
山口大学大学院 秋田知芳氏
- 27) (中国支部) 「わかりやすいコンクリート」講習会 12月11日
・既存 RC 造建築物の耐震診断用解析技術
山口大学 稲井栄一氏
・マスコンクリートの温度応力解析の現状
山口大学 中村秀明氏
・コンクリートの品質管理における IC タグの活用技術 & コンクリートのひび割れ補修技術に関する実験研究の紹介
広島大学 大久保孝昭氏
・劣化コンクリートの劣化メカニズム・診断・補修
広島大学 河合研至氏
・高強度コンクリートの現状
島根大学 丸田誠氏
- 28) (四国支部) 特別講演「ノーベル賞に繋がった徳島の産学連携・考」4月14日 徳島大学 藤井章夫氏
- 29) (四国支部) コンクリート教育助成に対する活動報告 4月14日
①「断面・寸法がコンクリートの圧縮破壊性状に及ぼす影響」
高知県立高知工業高等学校 根口百世氏
②「第8回コンクリート甲子園」
香川県立多度津高等学校 尾崎秀典氏
- 30) (四国支部) 講習会「塩害劣化を受けたコンクリート構造物の耐荷力評価に関する講習会」6月23日
- 31) (四国支部) 見学会 11月4日
場所：高松自動車道4車線化工事, 大坂トンネル北工事, 宮池橋下部工工事
- 32) (四国支部) 報告会「生コンセミナー in 徳島」&「四国の生コン技術力活性化委員会【第2期】」3月15日
- 33) (九州支部) 特別講演会「廃墟か、遺産か、初源の建築への廻行」4月24日 九州大学 藤原恵洋氏

3. 国際会議、国際シンポジウム等

- 1) 6月1日～3日に長崎市にて、「コンクリート構造物の再生および保全に関する国際会議（RCCS）」を開催した。また、世界遺産登録となった端島（軍艦島）見学ツアーを実施した。参加者数は約250名、参加国数23か国であった。
- 2) 7月13日に東京にて、創立50周年記念事業のひとつとして、3つのテーマ、①「マルチスケールモデルを通じたコンクリート工学・科学の体系化」、②「建設材料の新たな可能性～コンクリート用未利用資源の有効利用への提言～」および③「コンクリート構造物の耐震・強靱化」（第2回ACI&JCIジョイントセミナー）について国際シンポジウムを実施した。

[公3 表彰事業]

1. 学会賞

2015年日本コンクリート工学会賞（論文賞、技術賞、作品賞、奨励賞、功労賞）に選出されたのは、論文賞4件、技術賞3件、作品賞5件、奨励賞6件、功労賞14名で、通常総会に引き続いて行われた贈呈式において表彰した。

2. 支部表彰

支部別に以下の表彰が行われた。

- (1) 北海道支部
支部功績賞 2名、支部優秀学生賞 2名
- (2) 東北支部
奨励賞 5件、技術賞 1件、功労賞 12名
- (3) 近畿支部
支部奨励賞 3名
- (4) 中国支部
コンクリートマイスター認定 3名
- (5) 九州支部
支部長表彰
大学院 21名、大学 20名、高専 3名
合計 44名

Ⅲ 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・同主任技士資格制度事業

- (1) コンクリート技士・同主任技士試験
11月29日（日）に、全国9都市（札幌、仙台、東京（技士・千葉県船橋市、主任技士・江東区）、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、沖縄）において、コンクリート技士試験およびコンクリート主任技士試験を実施した。
受験者は全国で技士試験9063名、主任技士試験3477名で、合格者は技士試験2664名（合格率29.4%）、主任技士試験453名（合格率13.0%）であった。
- (2) コンクリート技士・同主任技士の登録
コンクリート技士試験・同主任技士試験合格者からの申請に基づき、コンクリート技士2634名（登録率98.8%）、同主任技士452名（登録率99.8%）の登録を行った。また、登録有効期間（4年）満了となる登録者、および未登録者からの申請により、更新・再登録を行った。この結果、平成28年4月1日

現在の登録者数は、コンクリート技士44238名、同主任技士10595名となった。

(3) コンクリート技士研修

コンクリート技士研修会を、7月2日から8月28日にかけて、全国19都市（札幌、盛岡、仙台、新潟、大宮、東京、横浜、浜松、津、岐阜、名古屋、金沢、松本、大阪、広島、高松、熊本、福岡、沖縄）において合計35回開催した。受講者は全国で9489名（前年度8484名）であった。

なお、コンクリート技士試験・同主任技士試験の平成27年度受験者と合格者および平成28年4月1日における登録者数の業種別内訳は、次のとおりである。

業種	試験		技士試験		主任技士試験		登録者	
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	技士	主任技士
官公庁	193	110	61	10	1639	264		
大学・学校	6	3	2	1	77	61		
設計事務所	51	20	6	1	474	158		
コンサルタント	517	168	123	19	2211	541		
セメント	143	63	53	15	649	434		
混和材料	167	63	125	17	819	432		
生コンクリート	2177	544	1905	187	10023	3757		
コンクリート製品	945	228	256	30	3725	603		
建設	3849	1149	730	147	20417	3310		
電力・ガス	78	40	22	3	412	96		
鉄道	199	70	16	2	579	69		
道路	142	50	20	4	468	63		
その他	596	157	158	17	2745	807		
合計	9063	2665	3477	453	44238	10595		

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習会

第15回コンクリート診断士講習会を4月2日から4月28日にかけて全国9都市（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、高松、広島、福岡、沖縄）において合計13回開催した。受講者は、4829名（前年度4060名）であった。

(2) コンクリート診断士試験

7月27日（日）に、全国9都市（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、沖縄）においてコンクリート診断士試験を実施した。

全国の受験者数は5462名（前年度4990名）で、合格者は806名（合格率14.8%）であった。

(3) コンクリート診断士の登録

診断士試験合格者からの申請に基づき、806名（登録率100%）の登録を行った。また、登録有効期間（4年）満了となる登録者、および未登録者のうちコンクリート診断士研修を受講した2545名の更新・再登録を行った。この結果、平成28年4月1日現在のコンクリート診断士登録者数は11667名となった。

(4) コンクリート診断士研修会

第11回コンクリート診断士研修会を、10月1日から10月23日にかけて、全国7都市（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡）において合計9回開催した。受講者は全国で2545名（前年度2543名）であった。

なお、コンクリート診断士の本年度の受験者と合格者および平成28年4月1日における登録者数の業種別内訳は、次のとおりである。

業 種	受 験 者	合 格 者	登 録 者
官 庁	49	15	130
独立行政法人・事業団	54	12	124
地方自治体・地方公社	207	51	523
大学・学校	4	2	63
設計事務所	84	7	165
コンサルタント	1 418	219	2 800
エンジニアリング	84	8	185
セメント	63	8	295
混和材料	35	2	159
生コンクリート	456	23	512
コンクリート製品	174	29	303
建 設	2 206	312	4 619
調査診断	127	19	342
試 験	40	3	66
電力・ガス	50	20	201
鉄 道	85	25	224
道 路	129	21	272
その他	197	30	584
合 計	5 462	806	11 667

3. 資格・講習委員会

国土交通省技術者資格登録WGの活動として国土交通省「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格登録規程」に基づく技術者資格に「コンクリート診断士」を申請した。その結果、施設分野「橋梁（コンクリート橋）」の「診断」、施設分野「橋梁（鋼橋）」の「診断」および「点検」、施設分野「トンネル」の「診断」および「点検」の5区分において新たに登録された。

【収2 その他の収益事業】

1. コンクリートテクノプラザ2015

コンクリート工学年次大会2015（千葉）と併行してコンクリートテクノプラザ2015を開催した。

展示 74件（80小間） 入場者数 延べ約7800名
技術紹介セッション 50件

Ⅳ そ の 他

1. 名誉会員の称号授与

第48回定時社員総会の決定に基づき、魚本健人氏、江崎文也氏、窪田敏行氏、佐藤立美氏、瀧口克己氏、豊福俊泰氏、飛坂基夫氏、水口裕之氏、宮崎修輔氏、茂田隆重氏、大和竹史氏、渡邊史夫氏、和美廣喜氏の13名に名誉会員の称号を授与した。

2. 中長期事業計画策定委員会

中長期的視野に立ってJCIが今後やるべきことを審議し、その成果を中長期事業計画（案）として取りまとめるための活動を開始した。初年度は、現行事業の棚卸として、事業ごとの課題とその原因の分析および解決の方向性に関して審議した。

3. 定款・規則改定委員会

定款の一部変更、学会規則および支部規程の見直しについて審議した。

また、JCI特許等知的財産権検討部会にて、本学会が特許出願を行う場合の産業財産権の内規案を作成した。

4. 終身会員およびフェロー会員制度

当該制度を実施するための規定類の整備を行った。50周年記念式典にて、終身会員として、田澤雄二郎氏、中内博司氏、満木泰郎氏、山口昭一氏、山崎敏敏氏、米倉亜州夫氏の6名に称号を授与した。また、フェロー会員について募集（自薦）を行った。

5. 助成金事業

助成金検討委員会を設置し、その制度内容、実施方法等について審議した。

6. 支部長会議

現行の支部規程の廃止および統一支部規程（案）等について審議した。

7. 会員の動向

会員種別	平成26年度末 会 員 数	平成27年度中の異動			平成27年度末 会 員 数
		入会	退会	異動	
正 会 員	6 352	385	681	202	6 258
学 生 会 員	411	268	35	-202	442
第1種団体会員	41	0	0	-	41
第2種団体会員	321	15	4	-	332
計	7 125	668	720	0	7 073

*異動：学生会員から正会員への変更等

8. 役員の異動

（1）平成27年6月10日付で退任（任期満了）した役員は次のとおりである。

副 会 長 宮川豊章
理 事 市之瀬敏勝、伊藤康司、宇治公隆、
遠藤孝夫、柏木正和、菊池健児、木水隆夫、
並木 哲、西山峰広、細谷多慶、溝渕利明
監 事 入矢桂史郎

（2）平成27年6月10日付で就任した役員は次のとおりである。

副 会 長 二羽淳一郎
理 事 阿部淳一、泉達 男、宇治公隆、内田裕市、
太田達見、鎌田敏郎、倉本 洋、坂田弘安、
添田政司、並川賢治、星田典行、前田匡樹、
森川英典
監 事 坂田 昇

平成 28 年度収支予算書（正味財産増減計算ベース）

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

（単位：千円）

平成 28 年度事業計画の概要

I 公益目的事業

[公 1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

- (1) 研究委員会所管の委員会
 - (A) 平成 28 年度継続する研究専門委員会
 - 1) 実構造物への適用性を重視したセンサ技術の調査と体系化研究委員会（平成 27～28 年度）
 - 2) 性能規定に基づく ASR 制御型設計・維持管理シナリオに関する研究委員会（平成 27～28 年度）
 - 3) 構造物の耐久性向上のためのブリーディング制御に関する研究委員会（平成 27～28 年度）
 - 4) 高温環境下におけるコンクリートの性能評価に関する研究委員会（平成 27～28 年度）
 - 5) 建設分野へのジオポリマー技術の適用に関する研究委員会（平成 27～28 年度）
 - (B) 平成 28 年度新規の研究専門委員会
 - 1) 鉄筋コンクリート造壁部材の曲げ終局強度算定法に関する研究（平成 28～29 年度）
 - 2) 電気化学的手法を活用した実効的維持管理手法の確立に関する研究委員会（平成 28～29 年度）
 - 3) 非破壊試験によるコンクリートに生じたひび割れの補修評価方法の確立に関する研究委員会（平成 28～29 年度）
 - 4) 自然環境下のコンクリート劣化研究委員会（平成 28～29 年度）
- (2) 技術委員会所管の委員会
 - 1) マスコンクリートソフト作成委員会（平成 27～28 年度）
 - 2) コンクリート基本技術調査委員会（平成 28～29 年度）
 - 3) マスコンクリートのひび割れ制御指針英文化委員会（平成 28 年度）
 - 4) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会（平成 28～29 年度）
 - 5) サステナビリティ委員会（平成 28～29 年度）
- (3) 支部研究委員会（確定している委員会のみ記載）
 - 1) （北海道支部）要求性能に基づくサステナブルなセメント系複合材料の材料設計法研究委員会（平成 27～28 年度）
 - 2) （近畿支部）暑中コンクリート工事の現状と対策に関する研究専門委員会（平成 26～28 年度）
 - 3) （中国支部）ポーラスコンクリートの耐久性の把握およびその向上に関する研究委員会（平成 27～28 年度）
 - 4) （中国支部）中国地方における骨材のアルカリシリカ反応の実態調査研究委員会（平成 27～28 年度）
 - 5) （四国支部）四国のコンクリート構造物インフラドック実現に向けた調査研究委員会（平成 27～28 年度）
 - 6) （四国支部）四国の生コン技術力活性化委員会【第 3 期】（平成 28～29 年度）
 - 7) （四国支部）四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会（平成 28～29 年度）
 - 8) （四国支部）コンクリート構造物の劣化診断の高度化に

勘 定 科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	合 計
I. 経 常 増 減 の 部				
1. 経 常 収 益				
(1) 基本財産運用益				
基本財産受取利息	32			32
特定資産受取利息		21	12	33
基本財産運用益計	32	21	12	65
(2) 受 取 会 費				
受 取 入 会 金	250		250	500
受 取 会 費	51 089		51 089	102 178
受取会費計	51 339		51 339	102 678
(3) 事 業 収 益				
受託研究事業収益	11 500			11 500
出版事業収益	45 540			45 540
会誌発行事業収益	6 070			6 070
年次大会事業収益	22 450			22 450
講演会等事業収益	32 476			32 476
国際会議事業収益				
技士・主任技士事業収益		351 046		351 046
診断士事業収益		219 896		219 896
テクノプラザ他事業収益		38 826		38 826
事業収益計	118 036	609 768		727 804
(4) そ の 他 収 益				
受 入 送 料				
受 取 利 息			20	20
印 税 収 益			1 322	1 322
雑 収 益			2 497	2 497
その他収益計			3 839	3 839
経常収益計	169 407	609 789	55 190	834 386
2. 経 常 費 用				
(1) 事 業 費				
調査研究事業費	99 777			99 777
標準化事業費	23 015			23 015
国際化事業費	19 064			19 064
受託研究事業費	11 500			11 500
出版事業費	50 343			50 343
会誌発行事業費	98 107			98 107
広報事業費	27 978			27 978
助成金事業費	11 604			11 604
年次大会事業費	69 334			69 334
講演会等事業費	44 519			44 519
国際会議事業費				
表彰事業費	8 771			8 771
技士・主任技士事業費		152 971		152 971
診断士事業費		143 914		143 914
テクノプラザ他事業費		10 043		10 043
事業費計	464 012	306 928		770 940
(2) 管 理 費				
人 件 費			20 206	20 206
会 議 費			18 170	18 170
事 務 費			21 368	21 368
管理費計			59 744	59 744
経常費用計	464 012	306 928	59 744	830 684
当期経常増減額	▲294 605	302 861	▲4 554	3 702
II. 経常外増減の部				
1. 経 常 外 収 益				
経常外収益計				
2. 経 常 外 費 用				
固定資産除却損				
経常外費用計				
当期経常外増減額				
他会計振替額	279 076	▲279 076		
当期正味財産増減額	▲15 529	23 785	▲4 554	3 702

公益目的事業比率 55.86%（公益目的事業会計経常費用計/経常費用合計）

関する研究委員会 (平成 28～29 年度)

9) (九州支部) 長期暴露コンクリート試験体の劣化評価
研究専門委員会 (平成 27～28 年度)

10) (九州支部) 建設材料としてのジオポリマーに関する
研究成果報告委員会 (平成 28 年度)

○継続する研究専門委員会の計画

(1-A-1) JCI-TC 151 A 実構造物への適用性を重視した
センサ技術の調査と体系化研究委員会 (平成 27～28 年度)

本研究委員会は、鉄筋コンクリート構造物や部材の施工品質や健全度を判断するために、実構造物において、計測の制約にとらわれず何をどの部位で計測し、どのような物性値で評価するかを明確にし、合理的な評価を実現するために必要な各種センサ計測技術を纏めることを目的としている。今年度は昨年度に整理したセンサネットワーク技術とそれらの活用方策について、「将来像分析」、「現状技術の分析」および「データの収集・活用技術」の3つの観点から検討を行う。最終的には「センサ技術を駆使した建設生産・維持管理の将来像と今後実施すべき検討課題」を整理し、成果を取りまとめる予定である。

(1-A-2) JCI-TC 152 A 性能規定に基づく ASR 制御型設計・維持管理シナリオに関する研究委員会
(平成 27～28 年度)

本研究委員会は、供用環境や岩石学的特徴に配慮した適切な試験法に基づく ASR 膨張モデリングを基軸に、構造物の重要度と、構造性能を含めた要求性能に応じた ASR「制御」型の設計および維持管理の連係シナリオの確立を目的に、既存の ASR 関連規準の改正とともに、「ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会 (TC 115 FS, 2011-2013)」で有用性を見出したコンクリートプリズム試験 (CPT) の一般化と予測への適用を検討する。また、補修効果の実態調査をもとに、維持管理連携に重要となる抑制対策の評価を行う。構造性能を含む要求性能に応じた ASR「設計」への将来展開について、膨張予測を基にした、性能評価のフレーム提示を目指す。

(1-A-3) JCI-TC 153 A 構造物の耐久性向上のためのブリーディング制御に関する研究委員会
(平成 27～28 年度)

本研究委員会は、コンクリートに生じるブリーディングがコンクリート構造物の耐久性に及ぼす影響を調査する「影響調査 WG」、ブリーディングを制御する方法を検討する「制御技術 WG」、試験方法や評価方法を検討する「試験方法 WG」の活動をともに、ブリーディングをどのように制御すれば初期に発生する不具合を減少させ、耐久性の高いコンクリート構造物を造ることができるかについて言及する。今年度は、検討報告書を作成し、報告会の企画を行う。

(1-A-4) JCI-TC 154 A 高温環境下におけるコンクリートの性能評価に関する研究委員会 (平成 27～28 年度)

本研究委員会は、コンクリートの爆裂抵抗性試験方法の提案を行い、爆裂メカニズムの解明と、火害を受けたコンクリートの物質侵入抵抗性 (塩分浸透抵抗性) について下記の WG を設置して検討を行う。

- 1) コンクリートの爆裂抵抗性試験方法 WG: RC 実部材の耐火試験の実績のある配合を対象として、角柱供試体と円柱供試体およびリング拘束試験による爆裂抵抗性試験の比較を行う。加えて、文献調査等を行いコンクリートの爆裂抵抗性の標準的試験方法の規格化を目指す。
- 2) 火害後のコンクリートの耐久性評価 WG: 非破壊試験お

よびセメント化学的分析により、火害を受けたコンクリートの損傷評価に関する実験を行い、耐久性指標を検討する。加えて、文献調査等を行い現場における火害診断試験方法について検討する。

(1-A-5) JCI-TC 155 A 建設分野へのジオポリマー技術の適用に関する研究委員会 (平成 27～28 年度)

本研究委員会は、中低レベル放射性物質 (セシウム等の重金属) の固定化、増加する産業廃棄物の転用、セメントコンクリートに対する製造時 CO₂ の低減化といった建設分野に関わる課題解決に資するため、ジオポリマーに関する既往の研究成果を結集し、迅速かつ効率的なジオポリマー研究の深化を図ることを目的として、反応機構や配 (調) 合に関わる基礎研究、材料や建材としての性能評価、重金属固定化技術といった応用研究についてとりまとめる。

今年度前半は WG 活動 (WG 1: 反応機構, WG 2: 力学特性・耐久性・構造, WG 3: 製造・施工) を中心とし、後半は研究成果の取りまとめに向けて委員間の情報共有を推進するための全体委員会を 2, 3 回開催する。なお、6 月 24 日 (金) に初年度の活動報告ならびに委員内外の情報交換を目的としたシンポジウム (場所: JCI 会議室) を開催する。

○新規の研究専門委員会の計画

(1-B-1) JCI-TC 161 A 鉄筋コンクリート造壁部材の曲げ終局強度算定法に関する研究 (平成 28～29 年度)

本研究委員会は、鉄筋コンクリート造壁部材の曲げ終局強度に関し、現状の算定法の問題点を明らかにし、それを解決できる算定手法の提案を目的とする。近年では、断面のみに着目した平面保持仮定の解析などでは、面材である壁部材の曲げ終局強度を妥当に算定できない場合があることが分かってきている。まずは、無開口および有開口壁部材の現状の曲げ終局強度算定法を既往実験結果に用いて検討し、それら算定法の問題点を抽出する。そして、要因分析や種々の解析により、その原因を把握する。その結果に基づき、問題点を解決できる算定法を提案し、ガイドラインを作成する。

(1-B-2) JCI-TC 162 A 電気化学的手法を活用した実効的維持管理手法の確立に関する研究委員会
(平成 28～29 年度)

本研究委員会は、電気化学的手法 (計測および対策) を、効果的かつ持続可能な維持管理手法として活用するための諸問題について、次の WG を設置して検討する。

- 1) 性能診断 WG: 点検手法における電気化学的計測手法の位置づけ、測定結果と劣化予測の関係性の整理等に基づき、既存コンクリート構造物の性能評価について検討する。
- 2) 劣化対策 WG: 性能評価に基づく適切な対策方法の選択、各種電気化学的補修工法の課題等を整理し、これらを効果的に活用した補修設計を提案する。

(1-B-3) JCI-TC 163 A 非破壊試験によるコンクリートに生じたひび割れの補修評価方法の確立に関する研究委員会 (平成 28～29 年度)

本研究委員会は、既存のひび割れ補修や自己治癒作用による内部ひび割れの閉塞を非破壊試験により評価する方法を整理し、将来的なコンクリート構造物における維持管理方法の一助とすることを目的とし、具体的には下記を実施する。

- 1) ひび割れ補修工法の整理および補修方法・目的を考慮した評価項目の抽出
- 2) ひび割れの補修評価に関する事例の整理
- 3) 非破壊検査方法の整理と分類

4) 評価フローの構築と維持管理システムの将来像 (1-B-4) JCI-TC 164 A 自然環境下のコンクリート劣化研究委員会 (平成 28~29 年度)

本研究委員会は、自然環境下のコンクリート性能を扱った 1991~1992 年・2003~2004 年に設置された研究委員会の後継委員会として、①一般環境下の劣化 (中性化)、②塩害環境下の劣化、③凍害環境下の劣化、④火山性腐食ガス・土壌環境下の劣化を対象にして、その地域性評価を行うとともに、その中で暴露試験・促進試験のあり方の整理、暴露試験協力ネットワークの構築、次世代の暴露試験のリーダー育成を図る。

なお、今回設置委員会の重点課題として「九州・中国地域のコンクリートの凍害」を掲げ、九州・中国地域における凍害の実態調査、劣化外力の大きさの検討と適切と考えられる場所における暴露試験の実施を行う。

○技術委員会所管の委員会の計画

(2-1) マスコンクリートソフト作成委員会

本委員会は、温度応力に加えて、湿気移動を考慮した乾燥収縮、自己収縮を考慮した応力解析ソフト JCMAC 3、初期応力を考慮した保有耐荷力解析ソフト JCMAC 3-U、JCMAC 1・2 のサポートおよび普及を図るため、以下の活動を行う予定である。①JCMAC 3 ひび割れ幅解析追加機能作成、②JCMAC 3、JCMAC 3-U、JCMAC 1・2 のサポート、③JCMAC 3 技術セミナー (2 回開催)、④JCMAC 3 解析事例集作成、⑤JCMAC 3、JCMAC 3-U、および JCMAC 1・2 の普及活動

(2-2) コンクリート基本技術調査委員会

本委員会は、コンクリートの施工工程における「準備工」、「製造」、「打込み・締固め・仕上げ」、「養生」および「品質管理および検査」などの一連のコンクリートの技術ごとに WG を編成し、それぞれに関連する基本技術と新技術を整理する。準備工 WG では型枠・支保工における基本技術、製造 WG ではコンクリートの製造時の課題を整理し、技術者に必要な情報を取りまとめる。これらのまとめた成果は、会誌、HP、講習会を通じて広く発信する。本年度は養生 WG の成果を発信するために講習会を実施する。

(2-3) マスコンクリートのひび割れ制御指針英文化委員会

「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2016」の英文化作業を行う。英文化作業は、「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2008」の英文版を基に、「同 2016」版の改訂内容を追加することで行う。また、既存の内容も含めて改訂版の英文のネイティブチェックを行う。改訂版の英語版は、2018 年 4 月に開催予定の JCI-RILEM 国際ワークショップ時に刊行する。

(2-4) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

WG 1 (環境評価 WG) の活動として、①6 月頃までに「LECCA-RDW (橋梁バージョン)」をリリースする。②年度末までに「LECCA 2-RDW (橋梁バージョン)」において、任意の橋梁形状を指定できるように改良する。また「LECCA-RDW (建物バージョン)」の開発に取り組む。WG 2 (劣化評価 WG) の活動として、①「LECCA 2-Plus」を 6 月頃までにリリースする。②補修材料・工法が有する物質移動抵抗性能を定量評価できる「LECCA 2-Plus 改良版」の開発に取り組むとともに、このソフトを用いて補修の性能評価を行うために入力する材料特性値を得るための試験方法を標準化する。③構造解析ソフトとの連携を図ることのできる 3 次元劣化シミュレーションソフト (「LECCA 3」) について検討を開始する。

また、「LECCA-RDW (橋梁バージョン)」と「LECCA 2-Plus」

とのリリースに合わせて、東京および関西でソフトの内容と使用方法等に関する講習会を 7 月ごろに開催する。

(2-5) サステナビリティ委員会

教科書検討 WG、評価指標検討 WG、評価ツール検討 WG、環境意識向上方策検討 WG、およびサステナビリティフォーラムで活動を行う。教科書検討 WG では問題の精査・追加と教科書を用いての講習会の全国実施を、評価指標検討 WG では開発した評価指標に基づく評価のケーススタディーの実施を、評価ツール検討 WG では教科書に示される例題の解法に利用できる評価ツールの開発を、環境意識向上方策検討 WG ではコンクリート技術者の環境・サステナビリティに対する意識・認識を高める方策の検討を、サステナビリティフォーラムではシンポジウムの開催およびコンクリート関連業界からのヒアリングを行う。

2. 標準化事業

標準化委員会所管の委員会

(1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

(2) ISO/TC 71 対応国内委員会

(3) JCI 規準委員会

(4) 再生骨材に関する JIS 改正原案作成委員会

(1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

1) 次の JIS の改正原案をまとめる。

・JIS A 1136 遠心力締固めコンクリートの圧縮強度試験方法

・JIS A 1138 試験室におけるコンクリートの作り方

・JIS A 1152 コンクリートの中性化深さの測定方法

2) 2017 年度に見直しが必要となる規格について改正要否を判定し、必要なものは改正原案の審議を行う。

3) 2018 年度に見直しが必要となる規格について、改正要否の検討を開始する。

(2) ISO/TC 71 対応国内委員会

1) 10 月に予定されている ISO/TC 71 総会および各 SC の会合に、SC 議長、SC 幹事、WG コンビナを派遣会の運営を図る。また、関連分野のエキスパートも併せて派遣し、日本の意見を強く主張する。

2) ISO/TC 71 において、次の SC の議長・幹事・コンビナの役割を遂行する。

・SC 5 (コンクリート構造物の簡易設計標準): コンビナ (WG 6)

・SC 6 (コンクリートの新しい補強材): 議長、幹事およびコンビナ (WG 3)

・SC 7 (コンクリート構造物の維持および補修): 議長

・SC 8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント): 議長、幹事およびコンビナ (WG 4)

3) 国内関係機関と連携し、ISO/TC 71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。

4) 日本から提案した次の ISO 規格案について、各国との調整を図り、早期の規格化を図る。

①コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント

②コンクリート補強用短繊維 (高分子系) 材料

③コンクリート構造物補修・補強用材料

④コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント (環境ラベリング、環境設計、供用)

- ⑤コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強ガイドライン
- ⑥水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計方法
- ⑦壁式鉄筋コンクリート造建物の簡易設計法

(3) JCI 規準委員会

研究委員会等から提案された規準案・指針案に対し、JCI 規準あるいは JCI 指針としての要件を備えているか否かを審議する。また、ISO、JIS 等の動きを見据えて、必要に応じた調整を行い、JCI 規準・指針を整備する。今年度は、提案された数件の規準類について審議する。

(4) 再生骨材に関する JIS 改正原案作成委員会

再生骨材および再生骨材コンクリートに関して、環境安全品質を確保しつつ、用途の拡大を図り普及を促進させるため、一般社団法人日本規格協会 JIS 原案作成公募に採択された事業である。再生骨材および再生骨材コンクリートに関わる次の JIS の改正原案を作成する。

- ① JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材 H)
- ② JIS A 5022 (再生骨材 M を用いたコンクリート)
- ③ JIS A 5023 (再生骨材 L を用いたコンクリート)

3. 国際化事業

- (1) *fib* に代表委員を派遣する。
- (2) ACI に代表委員を派遣する。
- (3) RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。
- (4) ACI と協力してジョイントセミナーを行うための準備を行う。
- (5) ACF へ国際委員会等の代表委員を派遣するとともに、諸事業活動を積極的に支援する。
 - ・ACF 主催フォーラム・セミナー (サステイナビリティ関係)
 - 春季 (中国・北京)
 - 秋季 (ベトナム・ハノイ)
 - ・ACF 正副会長会議：7 月 15 日 (札幌)
 - ・ACF 総会・Executive Council 会議・技術委員会：10 月 30 日～11 月 2 日 (ベトナム・ハノイ)
- (6) ACF 対応委員会

ACF の活動に積極的に関与するべく、上記会議へ委員を派遣するほか、その内容を国際標準化活動に反映させるため、ISO/TC 71 対応国内委員会とも連携する。
- (7) 東南アジア諸国にて開催される、コンクリート分野における海水の有効利用に関するシンポジウムへ、講演者として海水の有効利用に関する広報普及委員会の委員を派遣する。
- (8) OWICS (シンガポール) 国際会議の支援を行う。
- (9) 東南アジア諸国にて開催される、Joint Seminar of Practical Guideline for Investigation, Repair and Strengthening of Cracked Concrete Structures に、講師としてひび割れ補修補強指針普及委員会の委員を派遣する。
- (10) 10 月にコロンビアにて開催が予定されている第 22 回 ISO/TC 71 総会および各分科会に、ISO/TC 71 対応国内委員会から委員を派遣、国内審議団体として日本の意見を強く主張する。
- (11) ISO/TC 71 第 23 回 総会 (23rd Plenary Meeting of ISO/TC 71) 対応組織委員会を設置し、2017 年 9 月開催に向けて準備を行う。

- (12) ベトナムコンクリート学会 (VCA) と包括的協力協定を結ぶ。
- (13) マスコンクリートのひび割れ制御、若材齢コンクリートのひび割れ制御に関する国際ワークショップ (JCI-RILEM International Workshop on “Control of cracking of mass concrete and related issues concerning early age cracking of concrete structures” -CONCRACK 5-) の 2017 年 4 月開催に向けて同実行委員会にて、準備を行う。

4. 受託研究事業

- (1) 国際標準の開発を目的とした次の受託研究業務を ISO/TC 71 対応国内委員会にて実施する。
 - ①建築物における省エネルギー化を加速するコンクリート構造物の環境設計方法およびコンクリート製品の評価方法に関する国際標準化
 - ②コンクリート構造物の長寿命化に向けた関連技術に関する国際標準化
- (2) 供用不可まで劣化破損が進行したコンクリート構造物の補修・補強工法に関する研究委員会

長崎市から委託を受けた居住施設等の補修工法について検討を行う。本事業は、研究委員会所管の委員会として扱う。

5. 出版事業

下記の出版物を刊行する。

- (1) 第 49 回コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点'16」
- (2) 2016 年度コンクリート技士研修テキスト
- (3) コンクリート診断士講習会テキスト「コンクリート診断技術'17」
- (4) Journal of Advanced Concrete Technology
英文ジャーナル “Journal of Advanced Concrete Technology” (電子公開)
- (5) コンクリート工学年次論文集 第 38 巻 2016 年 (DVD 版)
- (6) Technical Committee Reports 2016 (JCI 研究委員会報告書要旨 (電子公開))
- (7) 次の研究報告書を刊行する。
 - 1) コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会報告書
 - 2) あと施工アンカーの耐久性評価と設計方法の高度化に関するシンポジウム論文集／委員会報告書
 - 3) RC 構造のせん断力問題に関するコロキウム論文集／委員会報告書
 - 4) コンクリートの確実な施工のための PDCA サイクル研究委員会報告書
 - 5) コンクリートにおける未利用資源の利用拡大に関する特別委員会報告書
 - 6) 接着系あと施工アンカーの耐アルカリ性試験方法に関する研究委員会報告書
 - 7) コンクリート基本技術調査委員会養生 WG 報告書
 - 8) マスコンクリートのひび割れ制御指針 2016

6. 会誌発行事業

- (1) 会誌「コンクリート工学」
「コンクリート工学」を毎月 1 回刊行して会員に頒布する。

特集テーマは次のとおりである。

- 1) 平成のコンクリート技術開発 平成 28 年 5 月号
- 2) コンクリートの境界領域と異分野との融合 (仮題) 平成 28 年 9 月号
- 3) (未定) 平成 29 年 1 月号

会員には発刊 1 年後に電子公開し、非会員には 3 年後に電子公開する。

- (2) コンクリート工学論文集
コンクリート工学論文集を電子公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動
公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。

社会一般に向けた啓蒙活動として、広報普及委員会のもとで JCI ホームページの内容向上を図ると共に、会誌「コンクリート工学」、パンフレット (和文、英文) 等により本学会の活動について広報活動を行うほか、関連業界紙の記者を交えた記者懇談会を定期的に開催し、本学会の活動状況の周知に努める。

また、広報戦略に関する調査・研究を行う「コンクリートのイメージアップ戦略検討委員会」を立ち上げて活動を開始する。

(2) 普及活動

- 1) コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会

本指針の国内・海外講演会等の実施および次回改定版の発行準備に向けた活動を実施する。また、質問対策や内容修正については、前年度に引き続き必要に応じた対応を行っていく。具体的には以下の活動を予定している。

- ①指針 2013 版に対する質問対策や修正対応
- ②国内・海外講習会 (東京、京都、岡山、九州の国内 4 箇所、マレーシア (コタキナバル、クチン)、台湾、ラオス (ビエンチャン) の海外 4 箇所) の実施、および講師派遣要請への対応
- ③次回改定版の内容検討
- ④国内・海外事例の情報収集
- ⑤より使いやすいひび割れ判定ソフトの作成

- 2) 海水の有効利用に関する広報普及委員会

東南アジアで開催されるシンポジウムへ講師として委員を派遣する。平成 27 年度に制作した「JCI-TC 121 A コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会」報告書の英訳版を用いる。また、腐食防食学会とクウェート国の間で実施する海水利用に関する共同研究への協力を行う。

(3) 電子情報化

- 1) 情報コミュニケーション委員会

本委員会では、本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い、定期的なホームページ更新による情報発信および広報活動を主な事業活動とする。具体的には以下の内容を予定している。

- ① JCI ホームページ全般の編集方針、企画・調査、原稿執筆に関する議論
- ② 一般向けコンテンツ「月刊コンクリート技術」の公開・定期更新
- ③ 会員向けコンテンツ「増刊コンクリート技術」の公開・定期更新
- ④ メールニュースの作成および配信

- ⑤ ホームページを活用したコンクリートに関する技術や研究成果の普及に向けた取組み
- ⑥ 英語版ホームページを活用した情報発信方法の検討

8. 助成金事業

コンクリートに関する研究助成およびコンクリートに関する国際会議での発表に対する助成事業であり、(1) 内閣府の変更認定 (公益目的事業の種類又は内容) が得られることおよび (2) 社員総会の定款変更 (事業内容の変更) に関する承認が得られること、という実施条件のもとで、会員、非会員を問わず、若手研究者を対象に実施する。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

コンクリート工学年次大会 2016 (博多) を 7 月 6 日 (水) ~ 8 日 (金) の 3 日間、福岡市の福岡国際会議場で開催する。

- 1) 第 38 回コンクリート工学講演会
- 2) 生コンセミナー：テーマ「持続可能な生コンのために：生コンから物申す」
- 3) 特別講演会：講師 青柳俊彦氏 (九州旅客鉄道㈱社長)
演題「未定」
講師 藤原恵洋氏 (九州大学教授)
演題「明治日本の産業革命遺産」
- 4) 見学会：3 コースを予定
- 5) キング・オブ・コンクリート：学生によるセメントを用いてコマを作り、3 部門 (紐付きコマ部門、手回しコマ部門、デザインコンペ部門) の競技を行なう。
- 6) 懇親会：福岡サンパレスホテル & ホール

2. 講演会、講習会、シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

第 49 回コンクリート技術講習会を 10 月に東京など全国 7 都市 8 会場において開催する。

(2) シンポジウム、セミナー、講演会、講習会

研究委員会報告会、シンポジウム、講演会等を次のとおり開催する。

- 1) 「コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会」報告会
① 東京会場
日 時：6 月 29 日 (水)
場 所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」小ホール
② 仙台会場
日 時：7 月 22 日 (金)
場 所：ハーネル仙台 会議室「松島 B」
③ 札幌会場
日 時：8 月 5 日 (金)
場 所：札幌市教育文化会館 講堂
- 2) あと施工アンカーの耐久性評価と設計方法の高度化に関するシンポジウム
日 時：6 月 27 日 (月) 10:00~17:35
場 所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」小ホール
- 3) コンクリート構造のせん断力に対する包括的照査技術研究委員会
「RC 構造のせん断問題に関するコロキウム」

- 日 時：9月30日（金）
場 所：東京
- 4) 「コンクリートの確実な施工のためのPDCA サイクル研究委員会」報告会
日 時：9月30日（金） 13:00～16:40
場 所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」小ホール
- 5) 「コンクリートにおける未利用資源の利用拡大」に関する特別委員会報告会
日 時：未定
場 所：東京（予定）
- 6) 「建設分野におけるジオポリマー技術の現状と課題」に関するシンポジウム
日 時：6月24日（金） 13:00～17:00
場 所：日本コンクリート工学会会議室
- 7) 「マスコンクリートソフト作成委員会」セミナー
①初級者セミナー
日 時：未定
場 所：未定
②中級者セミナー
日 時：未定
場 所：東京（予定）
- 8) 「コンクリート基本技術調査委員会養生 WG」報告会
日 時：未定
場 所：東京（予定）
- 9) 「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2016」講習会
①東京会場
日 時：9月28日（水）
場 所：東京大学生産技術研究所 コンベンションホール
②大阪会場 ③仙台会場 ④広島会場 ⑤福岡会場
日 時：未定
- 10) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会「LECCA-RDW（橋梁バージョン）」、「LECCA 2-Plus」リリース講習会
①日 時：未定
場 所：東京（予定）
②日 時：未定
場 所：大阪（予定）
- 11) コンクリートサステナビリティに関するシンポジウム
①シンポジウムⅢ、②シンポジウムⅣ
日 時：未定
場 所：未定
- 12) 「コンクリートの環境テキスト（案）」講習会
日 時：未定
場所（予定）：①札幌、②旭川、③仙台、④秋田、⑤千葉、⑥宇都宮、⑦岐阜、⑧静岡、⑨大津、⑩奈良、⑪広島、⑫米子、⑬高松、⑭松山、⑮福岡、⑯熊本
- 13) JCI 講演会
コンクリート工学に関する最新の話題に関する講演会を実施する。
日 時：未定
場 所：東京
- 14) （北海道支部）積雪寒冷地における補修工法の設計施工に関する研究委員会報告会
日 時：未定
- 場 所：未定
- 15) （関東支部）支部総会特別講演会
日 時：5月13日（金）
場 所：東京理科大学1号館
演 題：2015年ネパールゴルカ地震の被害とその分析
講 師：楠 浩一氏（東京大学地震研究所 災害科学系研究部門）
演 題：道路構造物の維持管理、診断、補修、補強技術
講 師：上東 泰氏（NEXCO 中日本技術マーケティング㈱）
- 16) （中国支部）特別講演会
日 時：5月20日（金） 16:10～17:10
場 所：広島工業大学広島校舎（501室）（広島市）
演 題：未定
講 師：十河茂幸氏（広島工業大学）
- 17) （四国支部）特別講演
日 時：4月13日（水） 16:30～17:30
場 所：パールガーデン（高松市福岡町2-2-1）
演 題：「生コンクリート JIS 改正を巡る環境配慮と国際化」
講演者：辻 幸和氏（群馬大学・前橋工科大学名誉教授）
- 18) （四国支部）コンクリート教育助成に対する活動報告①
日 時：4月13日（水） 15:50～16:10
場 所：パールガーデン（高松市福岡町2-2-1）
演 題：未定
講演者：未定（松山聖陵高等学校建築科）
- 19) （四国支部）コンクリート教育助成に対する活動報告②
日 時：4月13日（水） 16:10～16:20
場 所：パールガーデン（高松市福岡町2-2-1）
演 題：「第9回コンクリート甲子園」
講演者：尾崎秀典氏（香川県立多度津高校 教諭）
- 20) （四国支部）各種混和材料のコンクリートへの積極利用による高性能の付与に関する研究委員会の成果報告会
日 時：6月～7月開催の予定
場 所：高松市内
- 21) （九州支部）特別講演会
日 時：5月20日（金）
場 所：福岡リーセントホテル
演 題：未定
講演者：片山英資氏（福岡県北九州高速道路公社保全施設部保全管理課）

[公3 表彰事業]

1. 学 会 賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

- (1) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞（論文賞）」を贈り表彰する。
- (2) 本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同（技術賞）」を贈り表彰する。
- (3) コンクリート構造物の美的価値、創造性および環境と

の調和において技術面も含めて優れている造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同（作品賞）」を贈り表彰する。

- (4) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同（奨励賞）」を贈り表彰する。
- (5) 本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同（功労賞）」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

- (1) 支部功績賞、支部優秀学生賞の対象者を募集し、支部のコンクリート工学の発展に著しい貢献をした者、および優れた研究成果をあげた学生に対してそれぞれ表彰する。(北海道支部)
- (2) 論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。(東北支部)
- (3) 支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の著者（支部会員）に対して表彰する。(近畿支部)
- (4) コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター認定者」とする。(中国支部)
- (5) 九州・沖縄地区の大学、大学院、高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生、修了生に支部長賞を与える。(九州支部)

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・同主任技士資格制度事業

- (1) コンクリート技士・同主任技士試験
コンクリート技士、同主任技士試験を11月27日（日）、全国9都市において実施する。
- (2) コンクリート技士・同主任技士の登録
コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士、同主任技士試験合格者の登録、ならびに登録有効期間（4年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。
- (3) コンクリート技士研修およびコンクリート主任技士研修
コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士およびコンクリート主任技士研修を、登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート技士資格者および未登録者を対象として、7月12日（火）から8月31日（水）にかけて、全国22都市39会場において実施する。

2. コンクリート診断士資格制度事業

- (1) コンクリート診断士講習会
コンクリート診断士講習会を2日間の会期で、4月2日（土）から4月26日（火）にかけて、全国8都市12会場において実施する。
- (2) コンクリート診断士試験
コンクリート診断士試験を7月24日（日）、全国9都市において実施する。
- (3) コンクリート診断士の登録
コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士試験合格者の登録、ならびに登録有効期間（4年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。
- (4) コンクリート診断士研修
コンクリート診断士制度に基づくコンクリート診断士研修を、登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート診断士資格者および未登録者を対象として、10月に全国7都市9会場において実施する。

3. 資格・講習委員会

技術者資格登録準備WGにて、引き続き国土交通省技術者資格登録に対する検討を行う。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ2016

コンクリート工学年次大会2016（博多）と併行して、コンクリート関連企業および団体により、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

III その他

1. 名誉会員の表彰

定款第12条に基づき、本学会の目的達成に多大な貢献をした会員等に、別に定める規則により総会の決議を経て、名誉会員の称号を贈る。

2. 終身会員およびフェロー会員の表彰

定款第12条に基づき、理事会の決議を経て、コンクリート工学の見識に優れ、本学会の活動を長年にわたり支援した会員には、終身会員の称号を、コンクリート工学の見識に優れ、責任ある立場で長年にわたり指導的役割を果たし、社会に貢献した会員には、フェロー会員の称号を贈る。

3. 定款・規則改定委員会

定款、学会規則、支部規程等の改定の検討を行う。

4. 中長期事業計画策定委員会

これまでの50年間で積み上げられてきた実績と反省を踏まえて、今後JCIが果たすべき社会的な役割を再検討するとともに近未来の活動指針となる中長期事業計画案を策定する。